

JSPS 科研費 JP21H00829(基盤研究(B))

「ジェンダー視点に基づく教員育成スタンダード化政策の再検討—全国調査をもとにして」

研究代表者 木村育恵(北海道教育大学)

教員のキャリア形成に関するアンケート調査 (オンラインによる全国教員調査) 結果報告書

2023 年 3 月

木 村 育 恵(北海道教育大学)

河 野 銀 子(山形大学)

田 口 久美子(和洋女子大学)

池 上 徹(関西福祉科学大学)

跡 部 千 慧(立教大学)

高 野 良 子(植草学園大学名誉教授)

村 上 郷 子(法政大学)

井 上 いずみ(公立学校教員)

目 次

はじめに	5
1. 研究の目的	5
2. 調査の概要	6
3. 本報告書における分析方法および結果の示し方	8
 第Ⅰ部 男女別クロス集計	11
1. 入力必須項目および SC 項目	13
2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)	15
3. 回答者の状況(Q16～Q44)	29
 第Ⅱ部 校種別クロス集計	43
1. 入力必須項目および SC 項目	45
2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)	47
3. 回答者の状況(Q16～Q44)	64
 資料編	81
1. 調査票	83
2. 基礎集計表	93

はじめに 研究の目的と調査の概要

1. 研究の目的

本報告書は、JSPS 科研費(JP21H00829)の助成による共同研究「ジェンダー視点に基づく教員育成スタンダード化政策の再検討—全国調査をもとにして」(基盤研究(B))において行った全国教員調査の結果をまとめたものである。

本共同研究の目的は、教員スタンダード化政策における教員のキャリア形成の政策上の問題を、ジェンダーの視点から明らかにすることである。教員育成に関する教育改革は、教員のキャリア形成を官制主導でスタンダード化する方向で進行している。2017 年に策定が義務化された「教員育成指標」はその目玉である。だが、統制的な指標で(1)どのような教師が育つのか、(2)教員の自律的な力量形成やキャリア形成の多様性は許容されるのかという点で問題がある¹。

教員の働き方やありように関する改革は、当事者である教員が関与することなく、官邸や行政主導で他律的に行われており(子安 2017 等)、当事者である教員のおかれる状況は、業務量の増加(内田ほか 2020、油布 2021)や教職の非正規化の進行(山崎 2022)等、ますます悪化しているという指摘も数多くなされている²。

問題となるのは、こうした改革がジェンダーの視点を欠いたまま進行していることである。当事者である教員のおかれている実態をジェンダー視点から十分に把握・検証せずに教員の働き方や教員不足に関する改革が進行することで、女性はこれまで以上に教職の世界から周辺化され排除されかねない(木村ほか 2021)。

以上のことから、本研究では、教員のありように関わる教員政策の改革および動向が、教員のキャリア形成にどのような問題をおよぼすのかを明らかにすることを目的に、教員に関係する種々の改革が進行する現在、男女教員がどのような状況におかれているのかを把握するための全国的なアンケート調査を実施することにした。

¹ 令和 3(2021)年度 基盤研究(B)(一般)研究計画調書より。

² 木村育恵・池上徹・高野良子・河野銀子・田口久美子・跡部千慧・村上郷子・井上いずみ 2022「教員の働き方とキャリア形成に関するジェンダー分析～全国教員調査をもとにして～」『山形大学教職・教育実践研究』, 18(印刷中)より。

2. 調査の概要

本調査では、全国の国公立の小・中・高等学校(中等教育学校を含む)・特別支援学校の教員(管理職を含む)を対象に、2022年2月から3月にかけて、リサーチ会社マクロミルへの委託によって、インターネットモニターによるアンケート調査をオンラインで実施した。

マクロミルに調査を依頼するに当たり、対象者の条件として以下【対象者の条件】に示すように、a～cを設定した。また、校種によって回答者数に偏りが出ないように、「女性かつ小学校教員」「男性かつ特別支援学校教員」等のように、男女別・校種別に回答者数をおおよそ均等に割り付けることとし、全体の回収目標数を1,000サンプル以上として、調査を実施してもらった。

【対象者の条件】

- a. 全国の国公立の小・中・高等学校(中等教育学校を含む)・特別支援学校の教員および学校管理職
- b. 本務教員(いわゆる正規雇用教員)と非常勤等の兼務(いわゆる非正規雇用教員)
- c. 養護教諭や栄養教諭は含まない

アンケート調査項目の主な構成は、以下に示す【アンケート調査の構成】の通りである。はじめに(1)年齢や自認する性別等の属性に関する項目を設定し、次に、教員のキャリア形成に関する事項として、(2)仕事や職場環境に関する項目と(3)回答者自身の勤務先や家庭等での状況に関する項目を44問設定した。最後に、(4)教員のキャリア形成についての意見について自由記述欄を1問設けた。各質問項目の詳細については、巻末の資料編を参照されたい。

なお、実際のオンラインによるアンケート調査においては、(1)のスクリーニング項目(以下、SC)のうち、1問目の「あなたの職業」(SC1)は、先述の【対象者の条件】c、すなわち、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員かそれ以外(養護教諭および栄養教諭)かを確認し、養護教諭および栄養教諭の場合はここで回答終了とするために設定したが、実際の調査では該当件数は0件であった。

【アンケート調査の構成】

- (1) 入力必須項目および SC 項目:あなたの職業(SC1:養護教諭・栄養教諭はここで回答終了)、年齢(入力必須項目)、現在勤めている学校種(SC2)、自認する性別(SC3:女性・男性・その

他から1つ選択)、教員免許状の種類(SC4)、最終学歴等(SC5)

(2) **仕事や職場環境**:現在の職務で負担に感じること等、15 項目(Q1～Q15)

(3) **回答者自身の勤務先および家庭等での状況**:現在の勤務先での採用形態等、29 項目(Q16～Q44)

(4) 教員のキャリア形成についての自由記述(Q45)

最終的に、本調査の有効回答数は 1,112 人(女性 563 人、男性 549 人、その他0人)であった。参考までに、ここで、SC 項目についての回答者の基礎的事項を確認しておきたい。

はじめに、SC3「自認する性別」(以下、「男女」)別の S2「現在勤めている学校種」の状況を確認する。本調査では、現在勤めている学校種について「小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・その他」から1つ選んで回答してもらっているが、男女別・校種別の回答者数は表序-a の通りである。

表序-a 男女別・現在勤めている学校種

	N	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	有意確率
女性	563	25.6%	26.5%	24.9%	23.1%	0.974
男性	549	25.3%	25.5%	25.1%	24.0%	

次に、回答者の年齢(入力必須項目)や他の SC 項目(SC4 および SC5)について基礎的な状況を確認する。

表序-b に示すように、回答者の年齢は、平均 45.67 歳(最小値 20、最大値 82、中央値 46)である。

表序-b 回答者の年齢

あなたの年齢をお答え下さい。	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
(有効ケース:1112)	45.67	12.41	20	82	46

SC4「あなたの教員免許状は次のどれですか。1種と2種などのように複数所持の場合は、現在の職種に合った免許を選んで下さい。」については、「普通免許状(専修免許状)・普通免許状(1

種免許状)・普通免許状(2種免許状)・特別免許状・臨時免許状・当てはまるものがない」の6つから1つを選択してもらっている(表序-c)。このうち、回答者の取得が最も多かったのは普通免許状(1種免許状)であり、全体の7割(781人)を占めている。

表序-c 回答者の所持する教員免許状

			N	%
あなたの教員免許状は次のどれですか。 1種と2種などのように複数所持の場合は、現在の職種に合った免許を選んで下さい。	1	普通免許状(専修免許状)	165	14.8
	2	普通免許状(1種免許状)	781	70.2
	3	普通免許状(2種免許状)	99	8.9
	4	特別免許状	21	1.9
	5	臨時免許状	10	0.9
	6	当てはまるものがない	36	3.2

SC5「あなたの最終学歴は次のどれに当てはまりますか。」については、「4年制大学卒・大学院修士課程修了・教職大学院修了・短期大学卒・その他」の5つから1つを選択してもらっている(表序-d)。このうち、回答者が最も多いのは「4年制大学卒」であり、回答者全体の8割(914人)を占めている。

表序-d 回答者の最終学歴

			N	%
あなたの最終学歴は次のどれに当てはまりますか。	1	4年制大学卒	914	82.2
	2	大学院修士課程修了	125	11.2
	3	教職大学院修了	22	2.0
	4	短期大学卒	40	3.6
	5	その他	11	1.0

3. 本報告書における分析方法および結果の示し方

以下、本報告書では、SC項目をはじめ、各質問項目について、第I部にて男女別クロス集計

の結果を、第Ⅱ部にて校種別クロス集計の結果をみていく。各質問項目の分析については、以下の通り分担した。なお、教員のキャリア形成についての自由記述(Q45)は、本報告書では扱っていない。

【クロス集計の分担】

- ・ SC 項目、Q1、Q2……………木村育恵
- ・ Q3から Q6……………河野銀子
- ・ Q7、Q8……………田口久美子
- ・ Q9……………池上徹
- ・ Q10、Q11……………跡部千慧
- ・ Q12 から Q18……………高野良子
- ・ Q19 から Q32……………村上郷子
- ・ Q33 から Q44……………井上いずみ

本報告書では、第Ⅰ部、第Ⅱ部ともに、クロス集計においてはカイ二乗検定を行い、統計的有意差が認められると判断する水準を $p<0.05$ として分析結果を述べていく。また、年齢や教職経験年数等、実数による回答を求めた質問項目については、必要に応じてクロス集計表に中央値も記載する。回答者の傾向をみる手法としては、一般的に平均値がよく使われる。ただし、本報告書においては、第Ⅰ部以降で詳述するように、回答者の性別によって年代にやや偏りがみられたり、校種によって異なる傾向がみられたりする項目があるため、中央値を示すことにした。

最後に、第Ⅰ部および第Ⅱ部における表番号の表記方法について述べておく。

本報告書では、表序-3-1や表 30-2等のような表番号が使われている。以下の【表番号の表記方法】に示すように、「表」という文字の直後にある数字等(以下の●)は質問項目の番号を表し、「序-3」はSC3を、「30」等の数字は「Q30」等の項目番号に対応している。また、その後ろに続く数字(以下の△)は、第Ⅰ部の男女別クロス集計か、第Ⅱ部の校種別クロス集計かを表している。

【表番号の表記方法】

表●-△

●:質問項目の番号(SC 項目は「序-1」「序-2」等、問1以降は「1」「2」等)

△:第Ⅰ部の男女別クロス集計の場合は「1」、第Ⅱ部の校種別クロス集計の場合は「2」

すなわち、表序-3-1は「SC3の第Ⅰ部 男女別クロス集計の結果」を示し、表 30-2は「Q30の第Ⅱ部 校種別クロス集計の結果」を示している。

なお、1つの質問項目に複数の表を用いる場合は、表 30-2-1 のように、男女別／校種別を示す△のうしろに、さらに表の掲載順を示す番号を振った。

参考文献

木村育恵・跡部千慧・村上郷子・河野銀子・田口久美子・池上徹・井上いずみ・高野良子 2021 「教員育成指標は教員の働き方に何を及ぼすか—教員版・ジョブ・ディスクリプションの課題」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』, 72(1), 11-19.

子安潤(2017)「教育委員会による教員指標の「スタンダード化」の問題」『日本教師教育学会年報』 26, 38-45.

山崎洋介 2022 「教職員非正規化の傾向と特徴」『教育』, 914, 39-46.

内田良・広田照幸・高橋哲・嶋崎量・斉藤ひでみ 2020 『迷走する教員の働き方改革—変形労働時間制を考える』 岩波ブックレット

油布佐和子 2021 「労働過程からみた教師の多忙化問題—イギリスの学校・教師との比較を中心に」『人間と教育』, 112, 50-57.

第 I 部 男女別クロス集計

1. 入力必須項目および SC 項目

本調査では、入力必須項目として、教員の年齢を実数で回答してもらっている。ここでは、回答者の中央値を確認し、さらに年代別に区分して男女別にその状況を確認していく。

表序-1-1に示すように、回答者の年齢の中央値は女性が 39 歳、男性が 54 歳であり、全般的に男性回答者の年齢層が高いようすがうかがえる。年代別に区分してクロス集計した場合も統計的有意差がみられた。女性で最も多いのは「31～40 歳」で3割弱であるが、男性で最も多いのは「51～60 歳」で4割弱であった。

このように、本調査では、男性回答者の年齢が女性よりも高めであることを考慮しつつ、以降の分析結果をみていく必要がある。

表序-1-1 男女別・年代

	女性	男性
N	563	548
中央値	39	54
20～30歳	23.6%	4.2%
31～40歳	29.8%	16.6%
41～50歳	22.9%	22.4%
51～60歳	19.0%	37.0%
61歳以上	4.6%	19.7%
有意確率	<0.001	

また、本調査では、回答者の有する主たる教員免許状についても尋ねている。調査では、普通免許状(専修免許状)、普通免許状(1種免許状)、普通免許状(2種免許状)、特別免許状、臨時免許状の5つの選択肢に加え、いわゆる民間校長が含まれることも想定して「当てはまるものはない」を加えた6つから1つ(教員免許状を複数所持する場合は、現在の職種に合った免許状を)選んでもらっている。男女別にみると、表序-3-1のように、全般的に、男女いずれも7割前後が「1種免許状」を所持していることが分かる。

表序-3-1 男女別・現在の職種に合った教員免許状

	女性	男性
N	563	549
専修免許状	13.0%	16.8%
1種免許状	70.9%	69.6%
2種免許状	8.5%	9.3%
特別免許状	2.1%	1.6%
臨時免許状	0.9%	0.9%
当てはまるものがない	4.6%	1.8%
有意確率	0.075	

なお、回答者の最終学歴は、表序-4-1のように、男女で統計的有意差がみられる。全般的には4年制大学卒である割合が最も高く、8割を超えているが、大学院修士課程修了者の割合は男性に多く、短期大学卒は女性に多い傾向がある。

表序-4-1 男女別・最終学歴

	N	4年制大学 卒	大学院修士 課程修了	教職大学院 修了	短期大学卒	その他	有意確率
女性	563	81.9%	9.2%	2.0%	6.0%	0.9%	<0.001
男性	549	82.5%	13.3%	2.0%	1.1%	1.1%	

2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)

本調査では、回答者に「あなたの仕事や職場環境についてお尋ねします」として、Q1から Q15 までの問いを設定した。以下、それらの男女別クロス集計の結果をみていく。

(1) 1年間に本を何冊読んでいるか【Q1】

Q1では、1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいるかについて、「ほとんどない」から「年に51冊以上」までの8種類から回答してもらっている。その結果、表1-1に示したように、男女ともに「年に1～5冊」が最も多かった。統計的有意差はみられないものの、その割合は女性の方が8ポイント近く高い。

表1-1 男女別・「Q1 あなたは1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか」

	女性	男性
N	563	549
ほとんどない	17.8%	22.4%
年に1～5冊	36.1%	28.6%
年に6～10冊	14.2%	14.8%
年に11～20冊	12.8%	14.6%
年に21～30冊	6.9%	6.6%
年に31～40冊	3.7%	2.9%
年に41～50冊	2.5%	2.2%
年に51冊以上	6.0%	8.0%
有意確率	0.151	

(2) 1年度中に研修にどのくらい参加したか【Q2】

Q2では、2021年4月以降に各研修にどのくらい参加したのかを、0から100までの実数で回答してもらっている。分析では、はじめに回答者の中央値を確認し、さらに度数分布の状況をもとに回答を5つにカテゴライズして男女別のクロス集計を行っている(表2-1)。

各研修の参加回数の中央値については、「A. 校内研修」「B. 研究授業」以外が0であり、全般的に、男女とも校内研修や研究授業以外の研修にはほとんど参加していないことがうかがえる。回数の分布を5つにカテゴリー化してクロス集計すると、全般的に、どの研修も「0回」の割合は女

性の方が高い。特に、「A. 校内研修」「B. 研究授業」「E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)」「F. 大学や民間団体等による研修」の4つは有意差がみられ、いずれも、女性の「0回」の割合が男性より高く、6～10 ポイントの開きがある。他方、男性は、4つのうち、「A. 校内研修」「E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)」「F. 大学や民間団体等による研修」で「2～5回」の割合が女性よりも高く、「B. 研究授業」にいたっては、「6～10 回」の割合が有意に高い。

表2-1 男女別・「Q2 2021年4月以降、あなたは次の研修に何回くらい参加しましたか」

	性別(N)	中央値	0回	1回	2～5回	6～10回	11回以上	有意確率
A. 校内研修	女性(563)	3	25.9%	8.9%	35.3%	18.5%	11.4%	<0.001
	男性(549)	5	15.7%	6.4%	39.3%	27.3%	11.3%	
B. 研究授業	女性(563)	1	39.1%	17.6%	37.5%	5.9%	0.0%	<0.001
	男性(549)	1	31.5%	20.0%	36.4%	12.0%	0.0%	
C. 校内の自主的な勉強サークル	女性(563)	0	84.9%	3.6%	7.3%	4.3%	0.0%	0.113
	男性(549)	0	80.5%	5.8%	9.8%	3.8%	0.0%	
D. 校外の自主的な勉強サークル	女性(563)	0	82.2%	3.9%	8.5%	5.3%	0.0%	0.486
	男性(549)	0	81.1%	4.4%	10.6%	4.0%	0.0%	
E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(563)	0	60.7%	13.5%	21.0%	4.8%	0.0%	<0.001
	男性(549)	0	53.7%	10.9%	31.5%	3.8%	0.0%	
F. 大学や民間団体等による研修	女性(563)	0	83.8%	6.0%	6.4%	3.7%	0.0%	0.002
	男性(549)	0	77.8%	7.7%	12.4%	2.2%	0.0%	

(3) 研修が役立った程度【Q3】

Q3では、教員経験を振り返って、A～Dのような研修への参加の有無や、それらがどの程度役に立ったか尋ねている。

まず、各研修の参加経験の有無について確認しておく(表 3-1-1)。男女とも「参加していない」が過半数となる研修はない。一方、参加経験のある回答者が最も多いのは、「C. 教育委員会主催の研修」で、男女とも 7 割を超える。これに続く「B. 法定研修」は男女とも 7 割程度、「A. 校外の自主的な勉強サークル」や「D. 大学や民間団体による研修」は6割程度であった。どの研修も女性より男性の方が参加経験者の割合が高いが、教育委員会主催の研修を除き、統計的有意差はみられない。

表3-1-1 男女別「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」の研修参加の有無

	性別(N)	1回以上参加した	参加していない	有意確率
A. 校外の自主的な勉強サークル	女性(563)	60.0%	40.0%	0.356
	男性(549)	62.8%	37.2%	
B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	女性(563)	67.9%	32.1%	0.399
	男性(549)	70.3%	29.7%	
C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(563)	70.2%	29.8%	0.043
	男性(549)	75.6%	24.4%	
D. 大学や民間団体等による研修	女性(563)	55.8%	44.2%	0.089
	男性(549)	60.8%	39.2%	

次に、各研修に参加経験がある回答者が、研修がどの程度役立ったと捉えているか、4段階で回答を得た結果をみる(表 3-2-1)。

「とても役に立った」が最も高いのは「A. 校外の自主的な勉強サークル」で、これに「D. 大学や民間団体による研修」が続く。これらの研修では男女とも 2 割近くが「とても」と回答したが、「B. 法定研修」が「とても役に立った」と回答したのは男女とも 1 割を下回っている。また、「C. 教育委員会主催の研修」についても、「とても役に立った」とする回答は男女とも 1 割程度にとどまった。男女間に統計的有意差が見られるのは「B. 法定研修」のみで、男性は「とても」と「やや」を合わせても5割を下回っている。

表3-2-1 男女別・「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」

	性別(N)	とても役に立った	やや役に立った	あまり役に立っていない	まったく役に立っていない	有意確率
A. 校外の自主的な勉強サークル	女性(338)	19.8%	55.0%	18.6%	6.5%	0.664
	男性(345)	20.3%	58.0%	17.1%	4.6%	
B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	女性(382)	9.4%	50.0%	28.3%	12.3%	0.013
	男性(386)	8.8%	39.4%	33.9%	17.9%	
C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	女性(395)	10.6%	49.4%	28.1%	11.9%	0.179
	男性(415)	10.4%	43.4%	29.6%	16.6%	
D. 大学や民間団体等による研修	女性(314)	18.8%	51.3%	21.3%	8.6%	0.903
	男性(334)	17.1%	51.2%	23.4%	8.4%	

(4) 60歳時点でしていきたい仕事【Q4】

Q4では、60歳時点进行想定し、していきたい仕事について、「その他」を含む6種類から回答してもらっている。表4-1に示した通り、男女間に有意な差がみられた。

最も回答割合が高いのは男女とも「一般教員」であるが、女性では7割弱であるのに対し、男性では6割弱と1割程度の開きがある。一方、「教育行政職」や「教務主任」は男女とも5パーセントにも満たず、「その他の主任」では男女とも1割強となっている。また、「管理職」と回答した女性 は7%を下回り、男性の3分の1程度となった。

表4-1 男女別・「Q4 あなたは、60歳時点で、
どのような仕事をしたいですか」

	女性	男性
N	521	405
管理職	6.7%	19.0%
教務主任	4.4%	4.0%
その他主任	11.1%	12.1%
一般教員	68.9%	57.3%
教育行政職員	2.7%	3.7%
その他	6.1%	4.0%
有意確率	<0.001	

(5) 管理職や行政職になりたくない理由【Q5】

Q5では、Q4で「教務主任」「その他主任」「一般教員」と回答した者に対し、管理職や行政職になりたくない理由を尋ねた。回答は、「その他」を含む10項目から該当するものすべてを選択してもらった(表5-1)。

男女間に統計的有意差がみられたのは、「仕事に魅力を感じないから」「部活動に関わりたから」「家事・介護があるから」の3項目である。

回答割合が高かった理由を上位から順にみると、3位までは男女とも同じであった。最も高かったのは、「ずっと子どもと接していきたいから」で男女とも過半数を上回った。これに次ぐ「仕事に魅力を感じない」では、男性の回答割合が女性より10ポイント以上高く、統計的に有意な差が生じている。3番目に多い「責任が重すぎる」では、男女とも3割以上の回答があった。他方、4番目以降は男女間で違っており、女性では「家事・介護」、「授業を極めたい」が続くのに対し、男性で

は「授業を極めたい」「十分に働いたから」が続く。また、5%に満たないのは、女性では「広域異動」「学校外での活動に関わりたい」「部活動」、男性では「学校外での活動に関わりたい」であった。

表5-1 男女別・「Q5 管理職や行政職になりたくない理由は何ですか(複数回答)」

	女性	男性	有意確率
N	440	297	
ずっと子どもと接して いたいから	55.0%	50.8%	0.292
責任が重すぎるから	32.5%	36.7%	0.268
仕事に魅力を感じな いから	34.3%	46.8%	0.001
授業を極めたいから	14.1%	16.5%	0.401
部活動に関わりた いから	2.5%	10.4%	<0.001
広域で異動させられ るから	4.5%	10.1%	0.004
学校外での教育活動やNPO・ サークルに関わりた いから	3.2%	3.4%	1.000
家事・介護があるから	25.9%	12.5%	<0.001
十分に働いたから	10.9%	14.1%	0.208
その他	2.5%	7.4%	0.002

(6) 同僚との関わり方【Q6】

Q6では、同僚との関わり方として A～G の 7 項目を示し、それぞれについて4段階で回答を得た(表 6-1)。男女間に統計的有意差がみられたのは、「D. 困ったときに、同僚教師から援助してもらった」と「G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換したりする」の 2 項目で、いずれも「よくある」と回答した女性は男性の 2 倍近くであった。

「よくある」と「たまにある」を合わせてみると、6 割以上の回答が得られなかったのは「A. 学校を離れてもインフォーマルにつきあう」だけであった。「E. 困っている教師を支援した」は男女とも 4 分の 3 があると回答している。

表6-1 男女別・「Q6 あなたの同僚との関わり方に一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	よくある	たまにある	あまりない	まったくない	有意確率
A. 同僚と学校を離れてもインフォーマルにつきあう	女性(563)	10.3%	41.6%	27.7%	20.4%	0.008
	男性(549)	7.1%	34.8%	34.2%	23.9%	
B. 同僚と教育観や教育方針について語り合う	女性(563)	10.5%	51.3%	27.4%	10.8%	0.696
	男性(549)	12.2%	48.8%	27.0%	12.0%	
C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする	女性(563)	12.8%	48.3%	26.6%	12.3%	0.772
	男性(549)	12.9%	48.5%	28.2%	10.4%	
D. 困った時に、同僚の教師から援助してもらった	女性(563)	30.0%	47.2%	14.6%	8.2%	<0.001
	男性(549)	15.3%	50.8%	22.8%	11.1%	
E. 困っている教師を支援した	女性(563)	20.4%	55.1%	15.3%	9.2%	0.499
	男性(549)	21.3%	56.3%	15.7%	6.7%	
F. 同僚教師に指導・助言した	女性(563)	12.3%	49.4%	25.9%	12.4%	0.007
	男性(549)	18.4%	51.2%	20.6%	9.8%	
G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換をしたりする	女性(563)	22.6%	47.8%	18.5%	11.2%	<0.001
	男性(549)	13.7%	46.6%	27.0%	12.8%	

(7) 職場の雰囲気・状況【Q7】

Q7 では、職場の雰囲気・状況について、4項目を尋ねている。それぞれの項目の男女別の結果は表 7-1 の通りである。以下に、男女別の結果についてまとめる。

まず、「校長・校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている」かどうかについては、男女とも 5 割以上が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」と回答し、4 割未満が「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答している。

「校長・教頭が勝手にことごとく決めたり進めたりする」は、男女ともともに「とてもそう思う」と「ややそう思う」の回答が 5 割弱であり、5割以上が「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答している。

「校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている」では、7割以上が男女とも「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した。

「最終的な責任は管理職がとる」では、男女とも「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせると 7 割台、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせて 2割台であるが、「とてもそう思う」については男性が 7.6 ポイント、「ややそう思う」では女性が 7.7 ポイント有意に多かった。

表7-1 男女別・「Q7 あなたの職場の雰囲気・状況に一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	有意確率
A. 校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている	女性(563)	8.9%	46.9%	31.8%	12.4%	0.448
	男性(549)	10.7%	49.4%	28.2%	11.7%	
B. 校長・教頭が勝手にことごときを決めたり進めたりする	女性(563)	11.4%	36.8%	39.6%	12.3%	0.432
	男性(549)	10.6%	33.0%	44.3%	12.2%	
C. 校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている	女性(563)	6.2%	23.3%	44.2%	26.3%	0.220
	男性(549)	4.2%	20.8%	45.0%	30.1%	
D. 最終的な責任は管理職がとる	女性(563)	26.5%	50.3%	16.5%	6.7%	0.031
	男性(549)	34.1%	42.6%	16.9%	6.4%	

(8) 昨今の教育政策に関する勤務校での取り組み【Q8】

Q8では、勤務校での取り組みの程度について尋ねている。男女別の結果は表 8-1 の通りである。以下に男女別の結果についてまとめる。

「子ども・保護者による学校評価・教員評価」では、「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」を合わせると、男女ともに8割強が取り組んでいるとの回答であった。

「保護者・地域住民の学校参加」では、「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」をあわせると女性が7割強、男性が6割強の回答であった。

「人事・給与と連動した教員評価」では、「かなり取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」をあわせると男女ともに5割強、「あまり取り組んでいない」と「まったく取り組んでいない」が男女ともに4割強と拮抗している状況であった。

『全国学力・学習状況調査』の結果にもとづく学力向上策」では、「かなり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」の回答が、女性では5割以上、男性では5割弱であった。「かなり取り組んでいる」「全く取り組んでいない」では男女差がないが、「やや取り組んでいる」では女性が9.7ポイント有意に多く、「あまり取り組んでいない」では男性が9.2ポイント有意に多かった。

「GIGA スクール構想」では、男女とも6割前後が「かなり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」と回答していた。

「防災教育」は、男女ともに7割弱が「かなり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」という回答であった。

「ICT を用いた個別最適な学び」に向けた検討」は、男女ともに6割強～7割弱が「かなり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」と回答していた。

表8-1 男女別・「Q8 あなたの勤務先で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 子ども・保護者による学校評価・教員評価	女性(563)	25.2%	55.1%	13.9%	5.9%	0.574
	男性(549)	28.2%	54.6%	12.2%	4.9%	
B. 保護者・地域住民の学校参加	女性(563)	13.5%	57.5%	20.8%	8.2%	0.148
	男性(549)	12.9%	52.5%	26.6%	8.0%	
C. 人事・給与と連動した教員評価	女性(563)	8.2%	46.0%	32.1%	13.7%	0.707
	男性(549)	9.8%	43.9%	31.5%	14.8%	
D. 「全国学力・学習状況調査」の結果に基づく学力向上策	女性(563)	7.5%	48.5%	25.2%	18.8%	0.003
	男性(549)	7.3%	38.8%	34.4%	19.5%	
E. GIGAスクール構想	女性(563)	14.4%	44.0%	28.1%	13.5%	0.229
	男性(549)	16.9%	47.4%	23.9%	11.8%	
F. 防災教育	女性(563)	13.0%	53.6%	25.0%	8.3%	0.852
	男性(549)	14.0%	54.8%	23.7%	7.5%	
G. ICTを用いた「個別最適な学び」に向けた検討	女性(563)	17.4%	51.5%	22.2%	8.9%	0.111
	男性(549)	13.8%	50.5%	27.7%	7.8%	

(9) 育児休業やハラスメント対策等に対する勤務校での取り組み【Q9】

Q9 では、回答者が勤める学校で A～J の 10 項目についてどの程度取り組んでいるかと思っ
ているかを4段階で尋ねている。この質問は回答者の主観によるもので、事実としてではない点に
注意する必要がある。質問内容は育児休業やハラスメント対策、ワーク・ライフ・バランスなどから、
ジェンダーの視点を取り入れた教材開発などである。

表9-1に示す通り、「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」を合わせて女性、男性とも
に 50%を超えているのは、10 項目中「(セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止」
と「有給休暇取得の推進」の2項目のみである。一方、最も少なかったのは「宿泊を伴う研修への
積極的な参加を促す」だった。

表9-1 男女別・「Q9 あなたの勤務先で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 男性の育児休業取得の推進	女性(563)	6.2%	26.8%	39.8%	27.2%	0.022
	男性(549)	3.8%	32.8%	41.3%	22.0%	
B. 育児休業からの復帰に向けての支援	女性(563)	6.9%	38.0%	36.6%	18.5%	0.635
	男性(549)	6.4%	41.0%	36.6%	16.0%	
C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止	女性(563)	9.9%	44.4%	33.2%	12.4%	0.001
	男性(549)	12.2%	53.7%	22.6%	11.5%	
D. ジェンダーの視点を取り入れた教材開発・授業開発	女性(563)	6.0%	36.6%	40.5%	16.9%	0.709
	男性(549)	7.7%	35.3%	41.2%	15.8%	
E. 積極的な研修への声かけや、受けられなかった研修の再申請のサポート	女性(563)	6.0%	38.7%	39.4%	15.8%	0.935
	男性(549)	5.3%	39.9%	39.5%	15.3%	
F. 有給休暇取得の促進	女性(563)	13.3%	41.9%	30.9%	13.9%	0.609
	男性(549)	13.7%	44.3%	30.8%	11.3%	
G. 介護と仕事の両立支援	女性(563)	6.9%	37.5%	38.7%	16.9%	0.354
	男性(549)	7.8%	41.5%	36.6%	14.0%	
H. ワーク・ライフ・バランスに関する研修	女性(563)	5.3%	31.3%	41.2%	22.2%	0.593
	男性(549)	4.7%	34.8%	40.4%	20.0%	
I. 管理職に向けた女性教員の育成	女性(563)	4.6%	29.5%	42.1%	23.8%	0.531
	男性(549)	5.1%	32.4%	41.9%	20.6%	
J. 宿泊を伴う研修への積極的な参加を促す	女性(563)	3.9%	22.4%	43.9%	29.8%	0.677
	男性(549)	4.4%	23.7%	45.4%	26.6%	

男女別で有意差があったのは「男性の育児休業取得の推進」と「(セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止」の2項目だった。

「男性の育児休業取得の推進」では女性で「まったく取り組んでいない」が 27.2%だったのに対し、男性は2割強で少し差がある。「(セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止」では「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」を合わせて女性5割半ばなのに対し、男性6割半ばと、10 ポイント以上の差があった。

それ以外の統計的に有意差がなかった項目においても、女性の方が「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」を選んでいる割合は少ない。

なお、本調査は 2022 年 2 月から 3 月の実施であり、2022 年 10 月施行の育児・介護休業

法改正による出生時育児休業制度(いわゆる産後パパ育休)はまだ義務化されていない。

(10) 回答者の取り組み【Q10】

Q10では、回答者がA～Dにどの程度、取り組んでいるかを4段階で尋ねている。

表10-1に示した通り、男女とも「取り組んでいない」が過半数となるものはない。取り組んでいると回答した回答者が最も多いのは、「C. ICT 機器を用いた機器」で、男女とも「かなり取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」を合わせると、7割を超える。これに続く「D. 観点別評価」は、「かなり取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」を合わせると、女性が7割、男性が6割であった。どの取り組みも男性より女性の方が取り組んでいると回答した回答者の割合が高いが、統計的有意差はみられない。

表10-1 男女別・「Q10 あなたは次のことにどのくらい取り組んでいますか」

	性別(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. アクティブラーニング	女性(563)	14.2%	51.0%	26.6%	8.2%	0.155
	男性(549)	12.4%	46.3%	31.0%	10.4%	
B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業	女性(563)	15.8%	40.0%	27.0%	17.2%	0.699
	男性(549)	15.3%	37.0%	29.1%	18.6%	
C. ICT機器を用いた授業	女性(563)	22.9%	50.8%	18.5%	7.8%	0.865
	男性(549)	24.0%	48.3%	19.7%	8.0%	
D. 観点別評価	女性(563)	19.4%	49.7%	22.2%	8.7%	0.423
	男性(549)	20.2%	46.4%	25.9%	7.5%	

(11) 教職に対する回答者の考え【Q11】

Q11では、A～Mに関する回答者の考えを4段階で回答してもらっている。表11-1に示した通り、「B. 教員は、経済的に恵まれた仕事だ」と「G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ」、「M. 教員は、教師以外の人々との関係づくりが欠かせない仕事だ」の回答において、男女間に有意な差がみられた。

「B. 教員は、経済的に恵まれた仕事だ」に対しては、女性の方が男性よりも、「そう思う」の回答割合が高かった。「G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ」の場合は、「とてもそう思う」は、女性の回答割合(1割強)の方が男性の割合(1割未満)より高いものの、「とてもそう思

う」と「そう思う」を合わせると男性の回答割合(6割強)が女性の割合(約6割)よりも高かった。

「M. 教員は、教師以外の人々との関係づくりが欠かせない仕事だ」に対する回答は、女性の方が男性よりも、「そう思う」の回答割合が高かった。

表11-1 男女別・「Q11 あなたの考えに一番近いものを選んで下さい」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう思 う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	有意確率
A. 教員は、社会的に 尊敬される仕事だ	女性(563)	6.2%	39.6%	40.5%	13.7%	0.559
	男性(549)	7.7%	42.1%	37.3%	12.9%	
B. 教員は、経済的に 恵まれた仕事だ	女性(563)	8.5%	46.9%	31.6%	13.0%	<0.001
	男性(549)	3.8%	40.3%	40.4%	15.5%	
C. 教員は、精神的に 気苦労の多い仕事だ	女性(563)	59.9%	29.5%	6.7%	3.9%	0.411
	男性(549)	57.7%	33.0%	6.7%	2.6%	
D. 教員は、子どもに 接する喜びのある仕 事だ	女性(563)	38.0%	46.5%	10.3%	5.2%	0.404
	男性(549)	33.2%	50.6%	10.9%	5.3%	
E. 教員は、やりがい のある仕事だ	女性(563)	37.1%	44.6%	12.3%	6.0%	0.335
	男性(549)	31.9%	48.5%	13.1%	6.6%	
F. 教員は、自己犠牲 を強いられる仕事だ	女性(563)	38.7%	42.8%	14.4%	4.1%	0.851
	男性(549)	39.3%	43.0%	14.6%	3.1%	
G. 教員は、自分の考 えにそって自律的に やれる仕事だ	女性(563)	11.9%	47.6%	32.3%	8.2%	0.042
	男性(549)	8.2%	55.2%	28.6%	8.0%	
H. 教員は、高度の専 門的知識・技能が求 められる仕事だ	女性(563)	31.3%	50.8%	13.7%	4.3%	0.295
	男性(549)	27.3%	55.6%	14.0%	3.1%	
I. 教員は、高い倫理 観が強く求められる 仕事だ	女性(563)	36.1%	48.7%	10.5%	4.8%	0.810
	男性(549)	37.5%	49.0%	9.7%	3.8%	
J. 教員は、「自分らし さ」を表現できる仕 事だ	女性(563)	13.1%	47.1%	30.9%	8.9%	0.322
	男性(549)	13.5%	49.5%	26.2%	10.7%	
K. 教員は、はっきり とした成果を問われ る仕事だ	女性(563)	11.9%	44.2%	36.8%	7.1%	0.146
	男性(549)	9.7%	40.8%	39.5%	10.0%	
L. 教員は、割り当て た役割に専心する仕 事だ	女性(563)	10.8%	50.4%	30.0%	8.7%	0.210
	男性(549)	9.8%	45.2%	35.2%	9.8%	
M. 教員は、教師以外 の人々との関係づく りが欠かせない仕事 だ	女性(563)	29.8%	47.6%	17.2%	5.3%	0.027
	男性(549)	22.4%	54.8%	18.2%	4.6%	

(12) 教職生活に関する現時点の考え【Q12】

Q12 では、教職生活にかかわる A～E の 5 項目について、現時点で、どのように考えているかを4段階で尋ねている。

表 12-1 に示すように、男女別でクロス集計した結果、「A.教師になってよかった」を除く他4項目で統計的有意差が確認された。男女とも「とてもそう思う」の回答者の最も割合が高いのは「C. 毎日が忙しい」で、これに「B. 慢性的に疲れを感じる」が続く。この2項目は、男女とも4割前後が回答している。とくに、「毎日が忙しい」は、男性は4割を下回っているが、女性は4割を大きく超えている。一方、「D. 教師を辞めたい」は、男女ともに、5項目中最も少なく1割弱である。

なお、「とても＋ややそう思う」の回答割合の合計が、8割前後という高い項目が4つある。「教師を辞めたい」を除く、「教師になってよかった」「慢性的に疲れを感じる」「毎日が忙しい」「やりがいがある」である。うち、慢性的疲労感・毎日が多忙・やりがいの3つは、女性の方が男性より4～8ポイント高い。

表12-1 男女別・「Q12 あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか」

	性別(N)	とてもそう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく 思わない	有意確率
A. 教師になってよかった	女性(563)	29.1%	48.0%	15.3%	7.6%	0.643
	男性(549)	29.0%	48.5%	13.3%	9.3%	
B. 慢性的に疲れを感じる	女性(563)	38.9%	42.1%	16.0%	3.0%	0.029
	男性(549)	34.2%	39.5%	21.1%	5.1%	
C. 毎日が忙しい	女性(563)	46.7%	38.9%	11.7%	2.7%	0.023
	男性(549)	38.3%	42.8%	16.0%	2.9%	
D. 教師を辞めたい	女性(563)	13.0%	29.7%	37.1%	20.2%	0.008
	男性(549)	13.3%	22.8%	36.1%	27.9%	
E. やりがいがある	女性(563)	31.3%	48.7%	14.0%	6.0%	0.045
	男性(549)	27.1%	45.7%	19.1%	8.0%	

(13) 負担を感じる職務【Q13】

Q13 では、負担を感じる職務について「その他」「負担を感じるものがない」を含む 10 項目から該当するものすべて選んでもらった(表 13-1)。男女別でクロス集計した結果、表に示すように、10 項目中2項目「部活動」「調査・報告書等の事務作業」で統計的有意差が確認された。

男女で回答割合が高かった理由を上位から順にみると、1 番目は男女とも「保護者への対応」で 5割を大きく上回っている。2番目から6番目までは、女性と男性で多少の入れ替えはあるものの、「生徒指導」「調査・報告書等の事務作業」「校務分掌」「部活動」「授業準備」を4割から3割程度が回答している。有意差があった「部活動」は、女性の方が男性より 10 ポイント近く高く、また「調査・報告書の事務作業」は男性の方が7ポイント高く男女での違いが確認された。これらに「管理職への対応」「負担を感じるものがない」「管理職業務」「その他」が続くが、いずれも2割に満たない。

表 13-1 男女別・「Q13 あなたが負担に感じる項目をすべて選んで下さい」

	女性	男性	有意確率
N	563	549	
生徒指導	41.2%	43.0%	0.585
授業準備	27.2%	28.8%	0.593
校務分掌	38.5%	38.8%	0.951
部活動	33.4%	24.6%	0.001
保護者への対応	55.4%	57.2%	0.586
管理職への対応	19.9%	18.8%	0.649
管理職業務	6.9%	10.0%	0.067
調査・報告等の事務作業	40.7%	47.7%	0.019
その他	3.6%	1.8%	0.095
負担を感じるものがない	9.2%	8.4%	0.672

（14）教師を辞めたいと思ったことがあるか【Q14】

先の Q12 では、現在、辞めたいと思っているかを尋ねているが、Q14 では、過去に教師を辞めたいと思ったことの有無を回答してもらった。

表 14-1 に示すように、男女別でクロス集計した結果、統計的有意な差が確認された。男女とも 6割を超えて辞めたいと思ったことが「ある」と回答し、女性が8ポイント高い結果である。

表14-1 男女別・「Q14 あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	563	68.7%	31.3%	0.003
男性	549	60.1%	39.9%	

(15) 教師を辞めたいと思った理由【Q15】

Q15では、Q14で「ある」の回答者に、辞めたいと思った理由について、「その他」を含む6項目から該当するものすべてを選んでもらっている。

男女別では、表 15-1で示したように、「出産したから」と「職務上の理由」の2項目に統計的有意差が確認された。前者の「出産したから」は、女性の回答割合は2割、回答割合が低い男性との差は19ポイントとなっている。一方6項目中辞めたいと思った理由の最多の「職務上の理由」も、男性は7割弱、女性も5割と男女で19ポイントの開きがある。残り4項目の「介護を抱えたたら」「転職を考えたから」「自分自身の病気のため」「その他」は男女で差がほとんどなく、いずれも2割を下回る回答割合であった。

表15-1 男女別・「Q15(Q14が「ある」の場合)それはなぜですか(複数回答)」

	N	出産したから	介護を抱えたから	転職を考えたから	職務上の理由	自分自身の病気のため	その他
女性	387	19.1%	4.4%	17.6%	50.4%	17.8%	16.0%
男性	330	0.3%	3.6%	18.8%	69.1%	18.5%	11.5%
有意確率		<0.001	0.608	0.673	<0.001	0.820	0.083

3. 回答者の状況(Q16～Q44)

本調査では、「あなたについてお尋ねします」として、回答者の置かれている状況について、Q15 から Q44 まで尋ねた。以下では、これらの男女別クロス集計の結果をみていく。

(1) 現在の勤務先都道府県【Q16】

Q16 では、現在の勤務先都道府県を尋ねている。表 16-1は、記入された都道府県を「北海道東北」「関東」「中部」「近畿」「中国四国」「九州沖縄」地方の6つにカテゴライズしている。男女別クロス集計した結果、表にみるように、統計的に有意な差はない。突出した地方はなく、男女とも、最多は関東地方の 3 割前後で、中国四国地方が 1 割で最小であった。

表16-1 男女別・「Q16 現在の勤務先都道府県はどこですか。」

	N	北海道東北 地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国四国地 方	九州沖縄地 方	有意確率
女性	563	11.5%	31.8%	20.6%	15.3%	10.1%	10.7%	0.051
男性	549	17.1%	25.1%	20.9%	16.6%	9.1%	11.1%	

(2) 現在勤めている都道府県での勤務年数【Q17】

Q17 では、現在勤めている都道府県で何年目の勤務かを尋ね、回答があった年数(「10 年以内」、「11 年以上 20 年以内」、「21 年以上 30 年以内」、「31 年以上」)に 4 つにカテゴライズしている。

表 17-1に示すように、男女別のクロス集計した結果、有意差があった。まず、勤務年数の中央値を確認すると、女性は 10 年、男性はその2倍を大きく超える 26 年と男女に差があった。女性の最多勤務年数は 10 年以内が5割、男性は 31 年以上が4割を占めていることから、本調査の回答者の勤務年数からは、女性は比較的若いステージ、男性は円熟のステージにあることがうかがわれる。

表17-1 男女別・「Q17 現在勤めている都道府県で何年目の勤務ですか」

	N	中央値	10年以内	11年以上 20年以内	21年以上 30年以内	31年以上	有意確率
女性	563	10	52.9%	24.2%	12.3%	10.7%	<0.001
男性	549	26	20.0%	18.9%	20.8%	40.3%	

(3) これまでの教員歴【Q18】

Q18 では、これまでの教員歴(年数)について、臨時採用(非常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらった。中央値を確認した上で、「非常勤の期間はなし」、「1年」、「2～5年」、「6年以上」の4つにカテゴライズしている。

表 18-1-1 に示すように、男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差が確認された。まず、臨時採用教員歴(非常勤)の中央値は、男女とも0年である。「非常勤の期間はなし」は、男性に高く、女性(6割)と男性(7割)では10ポイントの開きがある。一方、非常勤経験「1年」「2～5年」「6年以上」はいずれも、男性より女性に2～5ポイント高い結果である。

表18-1-1 男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(非常勤))」

	N	中央値	非常勤の期間はなし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
女性	563	0	63.2%	12.3%	14.7%	9.8%	<0.001
男性	549	0	73.0%	9.8%	12.8%	4.4%	

次に、これまでの教員歴(年数)について、臨時採用(常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。表 18-1-2 は、中央値を確認後、「非常勤の期間はなし」、「1年」、「2～5年」、「6年以上」の4つにカテゴライズしている。

表に示すように、男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差はなかった。臨時採用教員歴(常勤)の中央値は、男女とも0年である。「臨時採用歴(常勤)の期間はなし」の回答は、男女とも6割前後で、5ポイント女性より男性に高かった。一方、臨時採用(常勤)「1年」「2～5年」「6年以上」の経験年数も、ほとんど差がないものの、男性よりやや女性に高い結果である。

表18-1-2 男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(常勤))」

	N	中央値	臨時採用(常勤)の期間はなし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
女性	563	0	56.3%	15.6%	19.7%	8.3%	0.217
男性	549	0	61.2%	12.6%	19.9%	6.4%	

次に、これまでの教員歴(年数)について、本採用(常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。表18-1-3は、中央値を確認後、「本採用の期間はなし」、「1～10年」、「11～20年」、「21

～30 年以「30 年以上」の 5 つにカテゴライズしている。

表に示すように、男女別でのクロス集計の結果、統計的に有意な差が確認された。本採用教員歴の中央値は、女性8年、男性26年、男性は女性の3倍を超えている。最も高い年数区部は女性が「1～10 年」に、男性は「31 年以上」に共に 4 割が回答しており、女性より男性の方が教員歴を多く有している。

以上、「臨時採用(非常勤・常勤)期間はなし」は、女性より男性に有意に高く、一方で、「本採用の期間はなし」は、女性に有意に高い傾向がみられる。

表18-1-3 男女別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(本採用)」

	N	中央値	本採用の期間はなし	1～10年	11～20年	21～30年	31年以上	有意確率
女性	563	8	18.3%	40.7%	20.8%	11.7%	8.5%	<0.001
男性	549	26	6.0%	17.1%	14.6%	22.2%	40.1%	

(4) 正規採用までに何回採用試験を受けたか【Q19】

Q19 では、正規の採用までに、何回、採用試験を受けたかを、0から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、回答の度数分布の状況をもとに回答を4つにカテゴライズして男女別クロス集計を行っている。表 19-1 に示すように、正規の採用までに受けた採用試験の回数は、男女ともに半数以上が1回である。2回及び3～5回の割合は、女性よりも男性のほうが、若干高い傾向があるが、統計的な有意差はない。

表19-1 男女別・「Q19あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか」

	N	1回	2回	3～5回	6回以上	有意確率
女性	460	57.4%	17.6%	19.3%	5.7%	0.170
男性	516	51.0%	21.9%	20.0%	7.2%	

(5) 教員以外のキャリアはあるか【Q20】

Q20 では、教員以外のキャリア経験の有無について尋ねている。表 20-1 に示すように、教員以外のキャリア経験については、男女とも「ない」と回答したものが7割以上であり、統計的な有意差はみられない。

表20-1 男女別・「Q20教員以外のキャリアの経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	563	26.5%	73.5%	0.747
男性	549	27.3%	72.7%	

(6) 教職を一度退職して再度教職に就いたことはあるか【Q21】

Q21 では、教職を一度退職して再度教職に就いたことがあるかどうかを尋ねている。表 21-1 に示すように、教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験が「ない」ものは、男女とも8割以上にのぼる。男女における統計的な有意差はみられない。

表21-1 男女別・「Q21教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	563	17.2%	82.8%	0.226
男性	549	14.6%	85.4%	

(7) 他都道府県で就職、退職し、他都道府県に就職した経験【Q22】

Q22 では、他都道府県で就職し、退職後、他都道府県に就職した経験を尋ねている。表 22-1 に示すように、他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験が「ない」ものは、男女とも8割以上にのぼる。男女における統計的な有意差はみられない。

表22-1 男女別・「Q22他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	563	13.9%	86.1%	0.926
男性	549	13.7%	86.3%	

(8) 現在の勤務先での採用形態【Q23】

Q23 では、現在の勤務先での採用形態を尋ねている。表 23-1 に示すように、現在の採用形

態では、女性は、男性よりも本採用が少なく、臨時採用の割合（常勤・非常勤を含む）も男性と比べて多い。また、男女による現在の勤務先での採用形態については、統計的な有意差がみられる。

表23-1 男女別・「Q23現在の勤務先での採用形態をお答え下さい」

	N	本採用	臨時採用・ 常勤	臨時採用・ 非常勤	その他	有意確率
女性	563	70.9%	11.0%	17.4%	0.7%	<0.001
男性	549	81.6%	7.3%	9.7%	1.5%	

（9）勤務校の設置形態【Q24】

Q24 では、勤務校の設置形態を尋ねている。表 24-1 にあるように、勤務校の設置形態は、男女ともに公立が8割以上を占め、私立は1割、国立は1割に満たない。統計的有意確率は無い。

表24-1 男女別・「Q24勤務校の設置形態をお答え下さい」

	N	国立	公立	私立	有意確率
女性	563	2.8%	83.7%	13.5%	0.088
男性	549	1.3%	87.4%	11.3%	

（10）現在の職名【Q25】

Q25では、教員の現在の職名について尋ねている。表 25-1 に示すように、男女ともに最も多いのは、「教諭」である。次いで女性は、「臨時採用・臨時講師」「主幹教諭・指導教諭、主任・主席教諭」で、男性は、「主幹教諭・指導教諭、主任・主席教諭」「臨時採用・臨時講師」「校長・副校長、教頭」の順である。統計的有意差はない。

表25-1 男女別・「Q25あなたの現在の職名をお答え下さい」

	N	校長・副校長・教頭	主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など	教諭	臨時採用・臨時講師	その他	有意確率
女性	563	1.6%	7.6%	67.3%	21.1%	2.3%	<0.001
男性	549	11.3%	16.6%	57.0%	12.9%	2.2%	

(11) 現在学級担任をしているか【Q26】

Q26では、現在学級担任をしているかどうかを尋ねている。表 26-1 に示すように、統計的有意差がみられ、学級担任を「している」が女性で5割弱、「していない」は5割強である。他方、男性では、学級担任を「している」のが4割弱、「していない」は6割と、担任をしていない割合が高い。

表26-1 男女別・「Q26あなたは現在学級担任をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	563	46.7%	53.3%	0.005
男性	549	38.4%	61.6%	

(12) 現在部活動の顧問をしているか【Q27】

Q27では、現在部活動の顧問をしているかどうかを尋ねている。表 27-1 に示すように、女性で部活動の顧問を「している」のは3割強であり、「していない」のは7割弱である。他方、男性で部活動の顧問を「している」のは4割であり、「していない」のは6割近い。全般的に顧問をしていない割合の方が高いが、男女間で統計的有意差がみられ、部活動顧問をしているのは男性に多い。

表27-1 男女別・「Q27あなたは現在部活動の顧問をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	563	34.1%	65.9%	0.021
男性	549	40.8%	59.2%	

(13) 現在教職大学院に在学しているか【Q28】

Q28では、現在教職大学院に在学しているかを尋ねている。表 28-1 に示すように、男女ともに回答者の9割以上が教職大学院には在学しておらず、統計的有意差もみられない。

表28-1 男女別・「Q28あなたは現在教職大学院に在学していますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	563	1.8%	98.2%	0.860
男性	549	1.6%	98.4%	

(14) 担当教科(中・高のみ)【Q29】

Q29では、中学校・高校教員を対象に、担当教科を尋ねている。表 29-1 にあるように、女性に多い科目(国語、英語、音楽)や男性に多い科目(社会、数学、理科等)がある。このうち、国語、数学、理科、音楽、英語、専門学科には統計的有意差がみられ、国語と英語では女性の割合が高く、数学や理科、専門学科では男性の割合が高い。

表29-1 男女別・「Q29中・高の先生方にお尋ねします。
担当教科をお答え下さい(複数回答)」

	女性	男性	有意確率
N	289	278	
国語	16.3%	9.7%	0.025
社会・地理歴史・公民	9.3%	14.0%	0.089
数学	13.1%	20.9%	0.018
理科	7.6%	18.7%	<0.001
音楽	8.0%	2.5%	0.004
美術・芸術	3.1%	1.4%	0.262
保健体育	6.6%	9.0%	0.349
家庭科・技術家庭科	6.9%	5.8%	0.609
英語(外国語)	25.3%	12.6%	<0.001
情報	2.1%	4.3%	0.154
総合的な学習(探究)の時間	10.7%	6.8%	0.106
特別の教科道徳	6.6%	4.0%	0.191
専門学科の教科(商業・工業・農業・水産など)	2.1%	7.9%	0.002
その他	4.2%	2.5%	0.353

(15) 担当教科のネットワークについて【Q30】

Q30 では、担当教科の学内外のネットワークの有無について尋ねている。表 30-1 に示すように、統計的有意差はなく、男女とも担当教科の学内外ネットワークの有無は半々である。

表30-1 男女別・「Q30 担当教科の学校内外のネットワークはありますか」

	N	ある	ない	有意確率
女性	438	50.2%	49.8%	0.181
男性	459	54.9%	45.1%	

(16) これまでの異動経験回数【Q31】

Q31 では、これまでの異動経験の回数について、0から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、度数分布の状況をもとに回答を4つにカテゴライズして男女別クロス集計を行っている。表 31-1 に示すように、これまでの異動経験回数で最も多いのは、「2～5回」で男女とも4割台である。次に、「一度もない」が女性2割半ば、男性が1割弱である。「6回以上」は女性で1割強、男性で3割半ばである。また、統計的有意有確率もみられる。

表31-1 男女別・「Q31これまで、異動は何回経験しましたか」

	N	一度もない	1回	2～5回	6回以上	有意確率
女性	563	24.3%	19.0%	43.3%	13.3%	<0.001
男性	549	9.5%	8.4%	47.2%	35.0%	

(17) これまでの転居を伴う異動経験回数【Q32】

Q32 では、転居を伴う異動の経験回数について、0から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、度数分布の状況をもとに回答を4つにカテゴライズして男女別クロス集計を行っている。表 32-1 に示すように、転居を伴う異動については男女で統計的有意差がみられ、「一度もない」割合は女性の方が高く、女性6割強、男性5割である。他方、1回以上になると、男性の方が女性よりも該当する割合が高い傾向がうかがえる。

表32-1 男女別・「Q32これまで、転居を伴う異動は何回経験しましたか」

	N	一度もない	1回	2回	3回以上	有意確率
女性	563	63.8%	17.6%	8.5%	10.1%	<0.001
男性	549	51.5%	19.5%	11.7%	17.3%	

(18) 現在担っている主任または主事の役割【Q33】

Q33 では、「あなたが現在担っている主任または主事の役割はあるか」を尋ねている。回答は、「担っていない」を含む7項目から該当するものすべてを選択してもらった(表 33-1)。

全般的に、「保健主事」や「その他の主任・主事」を除き、女性より男性の方が主任の割合が高い。

男女とも「主任や主事を担っていない」が最も多く、女性は約7割、男性は約5割であった。これに男性では「学年主任」、「教務主任」が、女性では「学年主任」、「その他の主任・主事の役割」が続く。

表33-1 男女別・「Q33あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか(当てはまるものすべて)」

	N	教務主任	学年主任	保健主事	生徒指導主事	進路指導主事	その他の主任・主事の役割	担っていない
女性	422	2.8%	12.8%	2.8%	4.0%	3.6%	10.0%	68.0%
男性	404	9.2%	18.3%	2.5%	7.2%	6.2%	8.7%	55.0%
有意確率		<0.001	0.034	0.830	0.050	0.104	0.551	<0.001

(19) 平均的な1日の在職時間【Q34】

Q34 では、平均的な1日の在職時間を「8時間未満」から「16時間以上」までの6段階から回答してもらった。

最も回答割合が高いのは男女とも「8時間以上 10 時間未満」で、約4割であった。「8時間以上から 12 時間未満」では、男性では約7割、女性では約6割であった。さらに、「12 時間以上」は男女とも 1 割強であった。「16 時間以上」は女性が若干多い。

一方、「8時間未満」は、女性の4分の1が回答し、男性と9ポイントの差があった。

表34-1 男女別・「Q34あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか」

	N	8時間未満	8時間以上 10時間未 満	10時間以 上12時間 未満	12時間以 上14時間 未満	14時間以 上16時間 未満	16時間以 上	有意確率
女性	563	25.2%	38.0%	25.6%	7.5%	1.1%	2.7%	0.016
男性	549	16.9%	42.6%	30.1%	7.5%	1.3%	1.6%	

(20) 通勤時間【Q35】

Q35 では、「通勤時間はどのくらいか」を「30 分未満」から「2時間以上」の5段階から回答してもらっている。最も回答割合が高いのは「30 分未満」で、男女とも約4割であった。「1時間未満」は男女とも約8割を超えている。一方「1時間 30 分以上」は男女とも1割弱であった。

表35-1 男女別・「Q35あなたの通勤時間はどのくらいですか」

	N	30分未満	30分以上1 時間未満	1時間以上1 時間30分未 満	1時間30分 以上2時間未 満	2時間以上	有意確率
女性	563	46.0%	37.5%	12.6%	2.5%	1.4%	0.860
男性	549	44.6%	37.7%	14.2%	1.8%	1.6%	

(21) 配偶者の有無【Q36】

Q36 では、「配偶者(事実婚を含む)がいるか」の回答を得た。男性は約8割が、女性は約6割が「配偶者(事実婚を含む)がいる」と回答しており、男性が2割多い(表 36-1)。

表36-1 男女別・「Q36あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)」

	N	いる	いない	有意確率
女性	563	64.7%	35.3%	<0.001
男性	549	83.1%	16.9%	

(22) 配偶者の職種および就労形態【Q37】

Q37 では、「配偶者(事実婚を含む)がいる」場合、「配偶者の職種、就労状況および就労形態」を尋ねた。男女とも「配偶者が教員ではない」割合が多く、男性では約7割が、女性では約6割弱であった。

表37-1 男女別・「Q37(Q36で「いる」場合)配偶者の職種、就労状況および就労形態」

	N	教員	教員ではない	有意確率
女性	364	40.1%	59.9%	<0.001
男性	456	25.7%	74.3%	

(23) 配偶者が教員の場合、本務教員か否か【Q38】

Q38 では、「配偶者の職種が教員」の場合、「本務教員」か「臨時採用・臨時講師等の兼務教員」かの回答を得た。男女とも「本務教員」が8割以上で、女性では9割が「本務教員」であった。

表38-1 男女別・「Q38(Q37で「教員」の場合)次のどちらに当てはまりますか」

	N	本務教員	臨時採用・臨時講師等の兼務教員	有意確率
女性	146	92.5%	7.5%	0.068
男性	117	85.5%	14.5%	

(24) 配偶者が教員でない場合の就労形態等【Q39】

Q39 では、「配偶者の職種が教員ではない」場合、「就労状況および就労形態」を尋ねた。

男性の約4割弱が「無職」と回答、これに「非正規雇用者」が3割と続く。一方、女性の8割弱が「正規雇用者」と回答し、男性は2割弱と女性の約4分の1で、大きな差が見られる。

表39-1 男女別・「Q39(Q37が「教員ではない」の場合)当てはまるものを選んで下さい」

	N	無職	正規雇用者	非正規雇用者	自営・家族従業・自由業	その他	有意確率
女性	218	4.6%	78.0%	4.6%	11.9%	0.9%	<0.001
男性	339	39.5%	15.9%	34.2%	8.6%	1.8%	

(25) 家事・育児・介護等の役割をどの程度担っているか【Q40】

Q40 では「現在、家事・育児・介護等、家庭の役割をどの程度になっているか」(家庭に必要な労力を100%として)を回答してもらった。

最も回答が多かったのは、女性では「ほとんどあなたがしている(90～100%程度)」が4割と多く、「半分以上はあなたがしている(60～80%程度)」を合わせると7割を超える。一方男性で

は「半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)」が4割弱と最も回答が多かった。さらに「ほとんどしていない(0～10%程度)」を合わせると約7割を超えて、「家事を半分以上している」女性の割合とほぼ同じであった。

表40-1 男女別・「Q40あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度になっていますか(家庭に必要な労力を100%として)」

	N	ほとんどあなたがしている(90～100%程度)	半分以上はあなたがしている(60～80%程度)	ほぼ半分あなたがしている(50%程度)	半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)	あなたはほとんどしていない(0～10%程度)	有意確率
女性	563	41.7%	32.1%	13.1%	4.4%	8.5%	<0.001
男性	549	9.3%	6.2%	12.0%	39.0%	33.5%	

(26) 子どもがいるかどうか【Q41】

Q41 では「子どもがいるかどうか」の回答を得た。男性では「子どもがいる」が7割、女性では「子どもがいる」が5割であった。

表41-1 男女別・「Q41あなたにはお子さんはいますか」

	N	いる	いない	有意確率
女性	563	55.4%	44.6%	<0.001
男性	549	71.0%	29.0%	

(27) 子どもの人数【Q42】

Q42 では「子どもがいる」場合、子どもの人数を実数で回答してもらった。表 42-1 に示すように回答者の子どもの数の中央値は男女とも二人であった。最も回答が多かったのは、男女とも「二人」が約4割であった。男女で大きく差があったのは、「一人」で女性が15ポイント高く、「三人以上」は男性が9ポイントほど高かった。

表42-1 男女別・「Q42(Q41で「いる」場合)お子さんの数は何人ですか」

	N	中央値	一人	二人	三人以上	有意確率
女性	312	2	40.4%	42.9%	16.7%	<0.001
男性	390	2	25.4%	49.0%	25.6%	

(28) 小学生未満の子どもがいるかどうか【Q43】

Q43 では「子どもがいる」場合、「小学生未満の子どもがいるか」を尋ねた。「小学生未満の子どもがいる」は女性では5割、一方、男性は女性の約3分の1と大きな差が見られる。

表43-1 男女別・「Q43(Q41で「いる」場合)小学生未満のお子さんはいますか」

	N	いる	いない	有意確率
女性	312	51.0%	49.0%	<0.001
男性	390	17.2%	82.8%	

(29) 現在、家族の介護をしているか【Q44】

Q44 では、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしているか」を回答してもらった。表44-1 に示すように、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていない」が男女とも約9割であった。統計的に有意な差はないが、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしている」は、男性の方が2ポイントほど高い。

表44-1 男女別・「Q44現在、ご家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
女性	563	9.8%	90.2%	0.194
男性	549	12.2%	87.8%	

第Ⅱ部 校種別クロス集計

1. 入力必須項目および SC 項目

本調査では、入力必須項目として、教員の年齢を実数で回答してもらっている。ここでは、回答者の中央値を確認し、さらに年代別に区分して校種別にその状況を確認していく。

表序-1-2に示すように、回答者の年齢の中央値は、どの校種も 40 代である。小学校・中学校・高等学校(以下、本文中では「高校」と表記)は中央値が 47 歳であり、特別支援学校は 43 歳と 3校種よりやや若い。年代別に区分したクロス集計結果をみると、どの校種も「51～60 歳」が他の年代よりも多いことがうかがえる。

表序-1-2 校種別・年代

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
N	283	289	278	262
中央値	47	47	47	43
20～30歳	13.8%	14.2%	12.6%	15.7%
31～40歳	22.6%	23.2%	22.7%	24.9%
41～50歳	20.8%	21.5%	23.7%	24.9%
51～60歳	29.7%	29.1%	25.5%	27.2%
61歳以上	13.1%	12.1%	15.5%	7.3%
有意確率	0.479			

次に、回答者の教員免許状をみる。本調査では、普通免許状(専修免許状)、普通免許状(1種免許状)、普通免許状(2種免許状)、特別免許状、臨時免許状および当てはまるものはないの6つから1つ(複数所持の場合は、現在の職種に合った免許状を)選んでもらっている。これを校種別にみると、表序-3-2のように、統計的に有意差がみられる。全般的に、どの校種も7割前後が「1種免許状」を所持している。ただし、「専修免許状」所持者については、高校で有意に高く、2割を超えている。

表序-3-2 校種別・現在の職種に合った教員免許状

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
N	283	289	278	262
専修免許状	8.8%	15.2%	26.3%	8.8%
1種免許状	76.3%	74.7%	65.1%	64.1%
2種免許状	9.2%	6.9%	5.4%	14.5%
特別免許状	0.4%	0.7%	0.4%	6.5%
臨時免許状	2.1%	0.0%	0.7%	0.8%
当てはまるものがない	3.2%	2.4%	2.2%	5.3%
有意確率	<0.001			

なお、回答者の最終学歴についても、表序-4-2のように、校種で統計的有意差がみられる。全般的には4年制大学卒である割合が8割前後と最も高く、小学校では限りなく9割に近い。他方、大学院修士課程修了者の割合は高校で高く、中学校や特別支援学校で1割前後、小学校では1割にも満たない一方で、高校では2割におよんでいる。

表序-4-2 校種別・最終学歴

	N	4年制大学 卒	大学院修士 課程修了	教職大学院 修了	短期大学卒	その他	有意確率
小学校	283	89.8%	3.9%	1.1%	4.2%	1.1%	<0.001
中学校	289	82.7%	10.4%	3.1%	3.8%	0.0%	
高等学校	278	72.7%	21.2%	1.8%	2.2%	2.2%	
特別支援学校	262	83.6%	9.5%	1.9%	4.2%	0.8%	

2. 回答者の仕事や職場環境(Q1～Q15)

本調査では、回答者に「あなたの仕事や職場環境についてお尋ねします」として、Q1から Q15 までの問いを設定した。以下、それらの校種別クロス集計の結果をみていく。

(1) 1年間に本を何冊読んでいるか【Q1】

Q1では、1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいるかについて、「ほとんどない」から「年に51冊以上」までの8種類から回答してもらっている。校種別でクロス集計した結果、表1-2に示したように、統計的に有意差がみられた。全般的には「年に1～5冊」が最も多いが、「ほとんどない」割合は特別支援学校で高く、「年に51冊以上」読んでいる割合は高校で特に高い。

表1-2 校種別・Q1 あなたは1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
N	283	289	278	262
ほとんどない	17.7%	21.5%	16.9%	24.4%
年に1～5冊	31.1%	34.3%	32.7%	31.3%
年に6～10冊	14.8%	12.1%	13.3%	17.9%
年に11～20冊	18.4%	12.8%	13.3%	9.9%
年に21～30冊	6.0%	5.5%	7.6%	8.0%
年に31～40冊	2.5%	5.2%	3.2%	2.3%
年に41～50冊	3.9%	1.7%	2.5%	1.1%
年に51冊以上	5.7%	6.9%	10.4%	5.0%
有意確率	0.031			

(2) 1年度中に研修にどのくらい参加したか【Q2】

Q2では、2021年4月以降に各研修にどのくらい参加したのかを、0から100までの実数で回答してもらっている。分析では、はじめに回答者の中央値を確認し、さらに度数分布の状況をもとに回答を5つにカテゴライズして校種別のクロス集計を行っている(表2-2)。

各研修の参加回数の中央値については、小学校教員の「A. 校内研修」と「B. 研究授業」の中央値が他の校種と比べて高い。それ以外の4つの研修については、全般的に0が目立ち、どの校種の教員も、校内研修や研究授業以外の研修にはほとんど参加していない。

回数の分布を5つにカテゴリー化してクロス集計すると、全般的に、研修に一度も参加したことのない「0回」の割合は高校で高く、小学校および特別支援学校はそれよりも低い。「A. 校内研修」「B. 研究授業」「E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)」の3つは統計的に有意差がみられ、研修への参加経験が「2～5回」「6～10回」と回答する割合が小学校で高い傾向にある。

表2-2 校種別・「Q2 2021年4月以降、あなたは次の研修に何回くらい参加しましたか」

	校種(N)	中央値	0回	1回	2～5回	6～10回	11回以上	有意確率
A. 校内研修	小学校(283)	6	16.6%	3.2%	28.3%	32.2%	19.8%	<0.001
	中学校(289)	3	23.5%	10.4%	36.0%	20.4%	9.7%	
	高等学校(278)	2	27.3%	11.5%	48.6%	9.7%	2.9%	
	特別支援学校(262)	5	15.6%	5.3%	36.6%	29.4%	13.0%	
B. 研究授業	小学校(283)	3	24.4%	12.4%	45.6%	17.7%	0.0%	<0.001
	中学校(289)	1	33.9%	21.5%	36.7%	8.0%	0.0%	
	高等学校(278)	1	48.9%	18.7%	29.9%	2.5%	0.0%	
	特別支援学校(262)	1	34.4%	22.9%	35.5%	7.3%	0.0%	
C. 校内の自主的な勉強サークル	小学校(283)	0	82.0%	4.2%	9.2%	4.6%	0.0%	0.763
	中学校(289)	0	84.4%	4.5%	7.6%	3.5%	0.0%	
	高等学校(278)	0	84.9%	4.7%	7.9%	2.5%	0.0%	
	特別支援学校(262)	0	79.4%	5.3%	9.5%	5.7%	0.0%	
D. 校外の自主的な勉強サークル	小学校(283)	0	79.5%	3.2%	12.7%	4.6%	0.0%	0.325
	中学校(289)	0	79.9%	3.8%	9.7%	6.6%	0.0%	
	高等学校(278)	0	84.2%	5.0%	7.6%	3.2%	0.0%	
	特別支援学校(262)	0	83.2%	4.6%	8.0%	4.2%	0.0%	
E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	小学校(283)	1	41.3%	13.1%	36.4%	9.2%	0.0%	<0.001
	中学校(289)	0	54.7%	12.8%	30.1%	2.4%	0.0%	
	高等学校(278)	0	71.6%	10.4%	15.1%	2.9%	0.0%	
	特別支援学校(262)	0	62.2%	12.6%	22.5%	2.7%	0.0%	
F. 大学や民間団体等による研修	小学校(283)	0	80.6%	7.8%	9.2%	2.5%	0.0%	0.699
	中学校(289)	0	83.7%	6.9%	7.6%	1.7%	0.0%	
	高等学校(278)	0	78.4%	6.5%	10.8%	4.3%	0.0%	
	特別支援学校(262)	0	80.5%	6.1%	9.9%	3.4%	0.0%	

(3) 研修が役立った程度【Q3】

Q3では、教員経験を振り返って、A～Dのような研修への参加の有無や、それらがどの程度役に立ったか尋ねている。

まず、各研修の参加経験の有無について確認しておく(表 3-1-2)。どの校種でも「参加していない」が過半数となる研修はない。一方、どの研修についても小学校教員の参加割合が高く、特に「C. 教育委員会主催の研修」への参加が8割を超え、高くなっている。同じ研修への高校教員の参加者は6割強なので、20 ポイントの開きがある。「A. 校外の自主的な勉強サークル」や「B.

法定研修」においても、小学校教員の4分の3が参加している。

表3-1-2 校種別「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」の研修参加の有無

	校種(N)	1回以上参加した	参加していない	有意確率
A. 校外の自主的な勉強サークル	小学校(283)	66.8%	33.2%	0.110
	中学校(289)	62.3%	37.7%	
	高等学校(278)	58.6%	41.4%	
	特別支援学校(262)	57.6%	42.4%	
B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	小学校(283)	75.3%	24.7%	0.016
	中学校(289)	67.8%	32.2%	
	高等学校(278)	62.9%	37.1%	
	特別支援学校(262)	70.2%	29.8%	
C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	小学校(283)	83.0%	17.0%	<0.001
	中学校(289)	75.4%	24.6%	
	高等学校(278)	63.3%	36.7%	
	特別支援学校(262)	69.1%	30.9%	
D. 大学や民間団体等による研修	小学校(283)	61.1%	38.9%	0.233
	中学校(289)	57.4%	42.6%	
	高等学校(278)	60.8%	39.2%	
	特別支援学校(262)	53.4%	46.6%	

次に、各研修に参加経験がある回答者が、研修がどの程度役立ったと捉えているか、4段階で回答を得た結果をみる(表 3-2-2)。「A. 校外の自主的な勉強サークル」や「D. 大学や民間団体による研修」は、「とても役に立った」が2割程度となる校種が多いが、「B. 法定研修」や「C. 教育委員会主催の研修」については校種によっては1割を下回る結果となった。「とても」と「やや」を合わせてみても、法定研修や教育委員会主催の研修が役に立ったとする回答割合が低い傾向は変わらないが、他校種(6割程度)と比べて高校教員では4割程度と低く、大きな差が見られる。

表3-2-2 校種別・「Q3 これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか」

	校種(N)	とても役に 立った	やや役に 立った	あまり役に 立っていない	まったく役に 立っていない	有意確率
A. 校外の自主的な 勉強サークル	小学校(189)	19.6%	62.4%	14.8%	3.2%	0.005
	中学校(180)	22.2%	47.8%	21.7%	8.3%	
	高等学校(163)	15.3%	54.6%	21.5%	8.6%	
	特別支援学校(151)	23.2%	61.6%	13.2%	2.0%	
B. 法定研修(初任 者研修・10年経験者 研修)	小学校(213)	10.8%	47.4%	29.6%	12.2%	0.011
	中学校(196)	10.2%	44.9%	29.6%	15.3%	
	高等学校(175)	6.3%	34.3%	36.6%	22.9%	
	特別支援学校(184)	8.7%	51.1%	29.3%	10.9%	
C. 教育委員会主催 の研修(法定研修を 除く)	小学校(235)	11.5%	51.9%	24.7%	11.9%	<0.001
	中学校(218)	13.3%	42.2%	30.3%	14.2%	
	高等学校(176)	6.8%	33.0%	37.5%	22.7%	
	特別支援学校(181)	9.4%	56.9%	24.3%	9.4%	
D. 大学や民間団体 等による研修	小学校(173)	16.2%	53.2%	24.3%	6.4%	0.038
	中学校(166)	19.9%	41.6%	27.1%	11.4%	
	高等学校(169)	15.4%	52.1%	21.9%	10.7%	
	特別支援学校(140)	20.7%	59.3%	15.0%	5.0%	

(4) 60歳時点でしていきたい仕事【Q4】

Q4では、60 歳時点でしていきたい仕事について、「その他」を含む6種類から回答してもらっている。表 4-2 に示した通り、校種間に有意な差がみられた。

最も回答割合が高いのはどの校種でも「一般教員」であるが、高校や特別支援学校の教員では7割近くであるのに対し、小学校教員では6割弱にとどまっている。「管理職」を希望しているのは、小学校教員が2割で最も高く、これに中学校、高校、特別支援学校が続く。

表4-2 校種別・「Q4 あなたは、60歳時点で、どのような仕事をしたいですか」

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
N	231	241	221	233
管理職	20.3%	12.9%	8.1%	6.9%
教務主任	4.8%	5.8%	5.4%	0.9%
その他主任	10.8%	9.5%	10.9%	15.0%
一般教員	55.0%	63.1%	67.9%	69.5%
教育行政職員	2.2%	3.7%	1.8%	4.7%
その他	6.9%	5.0%	5.9%	3.0%
有意確率	<0.001			

(5) 管理職や行政職になりたくない理由【Q5】

Q5では、Q4 で「教務主任」「その他主任」「一般教員」と回答した者に対し、管理職や行政職になりたくない理由を尋ねた。回答は、「その他」を含む10項目から該当するものすべてを選択してもらった(表5-2)。

校種間に統計的有意差がみられたのは、「ずっと子どもと接していきたい」「授業を極めたい」「部活動に関わりたい」の3項目である。「ずっと子どもと接していきたい」を理由とする教員は、小学校と特別支援学校で6割を超えるなど顕著に高く、授業や部活動を理由とする教員は中学校と高校で高い。

回答割合が高かった理由を上位から順にみると、どの校種でも、「ずっと子どもと接していきたいから」が最も高く、これに「仕事に魅力を感じない」、「責任が重すぎる」が続く。小学校、中学校、特別支援学校では4番目に「家事・介護」があがるが、高校では「授業を極めたい」が続いている。また、「広域異動」を理由に挙げるのは全体として低く、統計的有意差はないものの、高校教員の回答割合が他より高い傾向がみられた。

表5-2 校種別・「Q5 管理職や行政職になりたくない理由は何ですか(複数回答)」

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	有意確率
N	163	189	186	199	
ずっと子どもと接して いたいから	60.1%	44.4%	45.2%	63.8%	<0.001
責任が重すぎるから	28.8%	33.9%	33.9%	39.2%	0.230
仕事に魅力を感じない から	38.0%	36.5%	41.4%	41.2%	0.712
授業を極めたいから	9.2%	20.1%	23.1%	7.5%	<0.001
部活動に関わりた いから	0.6%	8.5%	10.8%	2.5%	<0.001
広域で異動させられ るから	4.3%	6.3%	9.1%	7.0%	0.347
学校外での教育活動や NPO・サークルに関わり たいから	1.8%	4.8%	4.3%	2.0%	0.259
家事・介護があるから	21.5%	22.2%	17.2%	21.1%	0.632
十分に働いたから	12.9%	12.7%	10.8%	12.6%	0.918
その他	4.3%	4.2%	3.8%	5.5%	0.856

(6) 同僚との関わり方【Q6】

Q6では、同僚との関わり方として A～G の 7 項目を示し、それぞれについて4段階で回答を得た(表 6-2)。校種間に統計的有意差がみられたのは、「E. 困っている教師を支援した」「C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする」「G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換したりする」「F. 同僚教師に指導・助言した」であった。いずれも、「よくある」と回答した高校教員の割合が顕著に低く、教材の協働作成や交換を除くと他校種の半分程度となっている。

一方、どの校種でも2割程度の教員が、「A. 学校を離れてもインフォーマルにつきあう」ことが「まったくない」と回答しており、他の項目と比して顕著に高い。これ以外の項目では、多くの校種で「よく」と「たまに」を合わせた割合が6割を上回った。

表6-2 校種別・「Q6 あなたの同僚との関わりに一番近いものを選んで下さい」

	校種(N)	よくある	たまにある	あまりない	まったくない	有意確率
A. 同僚と学校を離れてもインフォーマルにつきあう	小学校(283)	6.7%	40.3%	30.4%	22.6%	0.805
	中学校(289)	8.3%	39.1%	28.7%	23.9%	
	高等学校(278)	10.1%	35.3%	32.7%	21.9%	
	特別支援学校(262)	9.9%	38.2%	32.1%	19.8%	
B. 同僚と教育観や教育方針について語り合う	小学校(283)	9.5%	50.9%	29.3%	10.2%	0.065
	中学校(289)	10.4%	49.1%	29.8%	10.7%	
	高等学校(278)	9.7%	49.6%	29.5%	11.2%	
	特別支援学校(262)	16.0%	50.8%	19.5%	13.7%	
C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする	小学校(283)	14.5%	53.4%	23.7%	8.5%	0.008
	中学校(289)	13.8%	46.0%	28.7%	11.4%	
	高等学校(278)	7.6%	44.6%	33.8%	14.0%	
	特別支援学校(262)	15.6%	49.6%	23.3%	11.5%	
D. 困った時に、同僚の教師から援助してもらった	小学校(283)	20.5%	54.1%	15.5%	9.9%	0.338
	中学校(289)	22.1%	49.8%	17.3%	10.7%	
	高等学校(278)	21.6%	48.2%	21.2%	9.0%	
	特別支援学校(262)	27.1%	43.5%	20.6%	8.8%	
E. 困っている教師を支援した	小学校(283)	25.4%	56.2%	12.0%	6.4%	<0.001
	中学校(289)	22.5%	55.7%	14.2%	7.6%	
	高等学校(278)	11.9%	59.7%	21.2%	7.2%	
	特別支援学校(262)	23.7%	50.8%	14.5%	11.1%	
F. 同僚教師に指導・助言した	小学校(283)	20.1%	51.9%	18.7%	9.2%	0.018
	中学校(289)	17.3%	48.4%	23.5%	10.7%	
	高等学校(278)	9.0%	51.1%	28.1%	11.9%	
	特別支援学校(262)	14.5%	49.6%	22.9%	13.0%	
G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換をしたりする	小学校(283)	20.5%	48.4%	19.4%	11.7%	0.017
	中学校(289)	18.7%	44.3%	26.0%	11.1%	
	高等学校(278)	12.6%	45.3%	28.1%	14.0%	
	特別支援学校(262)	21.0%	51.1%	16.8%	11.1%	

(7) 職場の雰囲気・状況【Q7】

Q7では、職場の雰囲気・状況について、4項目を尋ねている。それぞれの項目の校種別の結果は表 7-2の通りである。以下に、校種別にまとめる。

「校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている」では、6割前後が、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答している。他学校種に比べ、高校のみ「ややそう思う」が4割強と有意に少なく、「あまりそう思わない」も4割弱と有意に多い。

「校長・教頭が勝手にことごとくを決めたり進めたりする」は、4校種とも「とてもそう思う」「ややそ

と思う」を合わせると4割台である。どの学校種も5割以上が「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答している。

「校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている」では、「とてもそう思う」「ややそう思う」をあわせるとどの学校種もおよそ3割以下であった。学校種による有意差はなかったが、小学校の教員は、3割強が校長・教頭からの評価を気にして仕事をしているという結果が得られた。

「最終的な責任は管理職がとる」では、どの学校種とも「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせると7割強から8割、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合わせた回答は2割弱から3割弱であった。

表7-2 校種別「Q7 あなたの職場の雰囲気・状況に一番近いものを選んで下さい」

	校種(N)	とてもそう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう 思わない	有意確率
A. 校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている	小学校(283)	12.4%	51.2%	25.8%	10.6%	0.013
	中学校(289)	11.8%	48.8%	26.6%	12.8%	
	高等学校(278)	8.3%	41.0%	38.5%	12.2%	
	特別支援学校(262)	6.5%	51.5%	29.4%	12.6%	
B. 校長・教頭が勝手にことごとくを決めたり進めたりする	小学校(283)	11.7%	32.2%	43.5%	12.7%	0.438
	中学校(289)	10.4%	33.9%	39.4%	16.3%	
	高等学校(278)	10.8%	37.1%	43.2%	9.0%	
	特別支援学校(262)	11.1%	36.6%	41.6%	10.7%	
C. 校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている	小学校(283)	6.4%	24.7%	41.0%	27.9%	0.532
	中学校(289)	5.9%	22.8%	41.2%	30.1%	
	高等学校(278)	4.3%	19.1%	48.9%	27.7%	
	特別支援学校(262)	4.2%	21.4%	47.7%	26.7%	
D. 最終的な責任は管理職がとる	小学校(283)	36.0%	44.5%	14.5%	4.9%	0.152
	中学校(289)	31.1%	46.4%	15.9%	6.6%	
	高等学校(278)	24.5%	47.1%	21.2%	7.2%	
	特別支援学校(262)	29.0%	48.1%	15.3%	7.6%	

(8) 昨今の教育政策に係る勤務校での取り組み【Q8】

Q8では、勤務校での取り組みの程度について尋ねている。校種別の結果は表 8-2の通りである。以下に、校種別の学校の取り組みをまとめる。Q8では、すべての項目で校種による違いが見られた。

「子ども・保護者による学校評価・教員評価」では、いずれの学校種においても 7 割以上が「か

なり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」と回答しているが、「かなり取り組んでいる」では特別支援学校で有意に多く、高校では有意に少なく、「やや取り組んでいる」では小学校が有意に多かった。「あまり取り組んでいない」では、小学校が有意に少なく、高校では有意に多かった。「まったく取り組んでいない」では小学校が有意に少なかった。

「保護者・地域住民の学校参加」ではいずれの学校種においても、「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」をあわせた回答がおおよそ6割以上を占めた一方で、取り組み方には学校による違いが有意に見出された。「かなり取り組んでいる」では、高校が有意に少なく、中学校では有意に多かった。「やや取り組んでいる」は、小学校が有意に多かった。「あまり取り組んでいない」では、小学校が有意に少なく、高校では有意に多かった。「まったく取り組んでいない」は、小学校で有意に少なかった。

「人事・給与と連動した教員評価」では、高校を除き「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」をあわせると5割後半を占めるのに対し、高校のみ4割強の回答であった。高校では「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」が有意に少ない一方で、「あまり取り組んでいない」では有意に多かった。

『全国学力・学習状況調査』の結果にもとづく学力向上策では、「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」の回答が、小学校・中学校で6割台後半と多かったが、高校では4割弱、特別支援学校では3割弱と少なかった。また、「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」では小学校・中学校が高校・特別支援学校よりも有意に多かった。一方で「あまり取り組んでいない」では小学校が有意に少なく、高校が有意に多かった。「まったく取り組んでいない」では、小学校・中学校が有意に多く、高校と特別支援学校が有意に少なかった。

「GIGA スクール構想」では、小学校が7割強、中学校では6割後半、特別支援学校では6割弱が「かなり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」と回答したのに対し、高校では、5割未満にとどまった。また「かなり取り組んでいる」では小学校・中学校が有意に多く、高校では有意に少なかった。「やや取り組んでいる」は小学校で有意に多く、高校で有意に少なかった。「あまり取り組んでいない」は高校で有意に多く、小学校で有意に少なかった。「まったく取り組んでいない」は、高校と特別支援学校で有意に多く、小学校・中学校で有意に少なかった。

「防災教育」は、小学校と特別支援学校で7割台、中学校で6割台が「かなり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」と回答しているが、高校では5割強にとどまった。「かなり取り組んでいる」では特別支援学校が有意に多く、高校では有意に少なかった。また「やや取り組んでいる」では小学校が有意に多く、高校が有意に少なかった。「あまり取り組んでいない」では特別支援学

校が有意に少なく、高校では「まったく取り組んでいない」とともに有意に多かった。

「ICT を用いた『個別最適な学び』に向けた検討」は、どの学校種も、6割弱から7割強で「かなり取り組んでいる」もしくは「やや取り組んでいる」と回答しているが、「やや取り組んでいる」が小学校で有意に多いのに対し、高校では有意に少なかった。「あまり取り組んでいない」「まったく取り組んでいない」も高校で有意に少なかった。

表8-2 校種別・「Q8 あなたの勤務校で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	校種(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 子ども・保護者による学校評価・教員評価	小学校(283)	26.9%	62.5%	7.4%	3.2%	<0.001
	中学校(289)	28.4%	52.6%	14.5%	4.5%	
	高等学校(278)	19.4%	53.6%	19.8%	7.2%	
	特別支援学校(262)	32.4%	50.4%	10.3%	6.9%	
B. 保護者・地域住民の学校参加	小学校(283)	15.5%	62.9%	17.7%	3.9%	<0.001
	中学校(289)	17.0%	50.2%	24.6%	8.3%	
	高等学校(278)	7.2%	50.7%	31.3%	10.8%	
	特別支援学校(262)	13.0%	56.5%	21.0%	9.5%	
C. 人事・給与と連動した教員評価	小学校(283)	9.5%	49.1%	30.0%	11.3%	0.014
	中学校(289)	9.0%	47.8%	28.4%	14.9%	
	高等学校(278)	5.8%	37.8%	39.2%	17.3%	
	特別支援学校(262)	11.8%	45.0%	29.8%	13.4%	
D. 「全国学力・学習状況調査」の結果に基づく学力向上策	小学校(283)	11.0%	58.7%	23.3%	7.1%	<0.001
	中学校(289)	11.1%	54.0%	26.3%	8.7%	
	高等学校(278)	3.2%	35.3%	36.7%	24.8%	
	特別支援学校(262)	3.8%	25.2%	33.2%	37.8%	
E. GIGAスクール構想	小学校(283)	19.8%	53.0%	20.1%	7.1%	<0.001
	中学校(289)	19.7%	46.4%	26.6%	7.3%	
	高等学校(278)	7.9%	38.5%	33.5%	20.1%	
	特別支援学校(262)	14.9%	44.7%	23.7%	16.8%	
F. 防災教育	小学校(283)	11.0%	63.6%	20.1%	5.3%	<0.001
	中学校(289)	14.9%	52.2%	26.0%	6.9%	
	高等学校(278)	7.6%	45.3%	36.0%	11.2%	
	特別支援学校(262)	21.0%	55.7%	14.9%	8.4%	
G. ICTを用いた「個別最適な学び」に向けた検討	小学校(283)	15.2%	58.0%	21.2%	5.7%	0.033
	中学校(289)	16.3%	52.2%	24.9%	6.6%	
	高等学校(278)	14.0%	44.6%	29.9%	11.5%	
	特別支援学校(262)	17.2%	49.2%	23.7%	9.9%	

(9) 育児休業やハラスメント対策等に対する勤務校での取り組み【Q9】

Q9 では、回答者が勤める学校で A～J の 10 項目についてどの程度取り組んでいるかと思っているかを4段階で尋ねている。この質問は回答者の主観によるもので、事実としてではない点に注意する必要がある。質問内容は育児休業やハラスメント対策、ワーク・ライフ・バランスなどから、ジェンダーの視点を取り入れた教材開発などである。

表 9-2 に示す通り、どの校種でも「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」を合わせて5割を超えているのは、10 項目中「(セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止」と「有給休暇取得の推進」の2項目のみである。特定の校種でのみ5割を超えていたのは「育児休業からの復帰に向けての支援」で、特別支援学校でのみ5割をわずかに超えていた。

統計的に有意差があったのは「男性の育児休業取得の推進」のみだった。「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」を合わせると、小学校と中学校が2割弱、高校が3割強、特別支援学校が4割半ばとなり、ほぼ市町村立の小学校と中学校のほうが、公立ではほぼ都道府県立となる高校や特別支援学校より取り組んでいると思っている割合が少ない結果だった。特に特別支援学校については過半数を超えているわけではないにしても、他の3つの校種よりも「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」を合わせた割合が高い。

統計的に有意差はないが、「育児休業からの復帰に向けての支援」と「管理職に向けた女性教員の育成」は有意傾向にあり、ともに高校の回答者が他の3つの校種よりも「かなり取り組んでいる」「やや取り組んでいる」と答えた割合が少ない。

表9-2 校種別「Q9 あなたの勤務校で次の項目はどのくらい取り組まれていますか」

	校種(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. 男性の育児休業取得の推進	小学校(283)	3.9%	25.8%	43.5%	26.9%	0.010
	中学校(289)	5.2%	25.3%	41.9%	27.7%	
	高等学校(278)	4.0%	30.6%	40.3%	25.2%	
	特別支援学校(262)	7.3%	38.2%	36.3%	18.3%	
B. 育児休業からの復帰に向けての支援	小学校(283)	9.5%	37.5%	38.9%	14.1%	0.083
	中学校(289)	5.2%	40.8%	33.9%	20.1%	
	高等学校(278)	5.0%	35.6%	40.6%	18.7%	
	特別支援学校(262)	6.9%	44.3%	32.8%	16.0%	
C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止	小学校(283)	11.0%	48.4%	26.9%	13.8%	0.117
	中学校(289)	11.1%	46.7%	31.1%	11.1%	
	高等学校(278)	10.4%	45.0%	32.7%	11.9%	
	特別支援学校(262)	11.8%	56.5%	20.6%	11.1%	
D. ジェンダーの視点を取り入れた教材開発・授業開発	小学校(283)	6.4%	36.7%	40.6%	16.3%	0.445
	中学校(289)	7.6%	39.8%	40.1%	12.5%	
	高等学校(278)	6.1%	31.7%	44.2%	18.0%	
	特別支援学校(262)	7.3%	35.5%	38.2%	19.1%	
E. 積極的な研修への声かけや、受けられなかった研修の再申請のサポート	小学校(283)	6.4%	40.6%	38.2%	14.8%	0.318
	中学校(289)	6.9%	42.2%	36.3%	14.5%	
	高等学校(278)	4.0%	33.8%	43.2%	19.1%	
	特別支援学校(262)	5.3%	40.5%	40.5%	13.7%	
F. 有給休暇取得の促進	小学校(283)	15.9%	37.8%	31.4%	14.8%	0.467
	中学校(289)	11.4%	42.6%	32.5%	13.5%	
	高等学校(278)	12.6%	46.8%	30.2%	10.4%	
	特別支援学校(262)	14.1%	45.4%	29.0%	11.5%	
G. 介護と仕事の両立支援	小学校(283)	8.8%	38.2%	36.0%	17.0%	0.090
	中学校(289)	7.3%	37.7%	38.4%	16.6%	
	高等学校(278)	4.7%	36.3%	43.5%	15.5%	
	特別支援学校(262)	8.8%	46.2%	32.4%	12.6%	
H. ワーク・ライフ・バランスに関する研修	小学校(283)	5.7%	34.3%	39.9%	20.1%	0.189
	中学校(289)	5.2%	34.9%	38.4%	21.5%	
	高等学校(278)	4.0%	25.9%	48.2%	21.9%	
	特別支援学校(262)	5.3%	37.0%	36.6%	21.0%	
I. 管理職に向けた女性教員の育成	小学校(283)	5.3%	35.3%	37.8%	21.6%	0.522
	中学校(289)	4.5%	30.4%	42.9%	22.1%	
	高等学校(278)	4.3%	25.5%	46.0%	24.1%	
	特別支援学校(262)	5.3%	32.4%	41.2%	21.0%	
J. 宿泊を伴う研修への女性の積極的な参加を促す	小学校(283)	3.9%	23.3%	44.9%	27.9%	0.985
	中学校(289)	4.8%	24.6%	42.9%	27.7%	
	高等学校(278)	3.6%	20.5%	46.8%	29.1%	
	特別支援学校(262)	4.2%	23.7%	43.9%	28.2%	

(10) 回答者の取り組み【Q10】

Q10では、回答者がA～Dにどの程度、取り組んでいるかを4段階で尋ねている。表10-2に示した通り、「A. アクティブラーニング」と「B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業」、「D. 観点別評価」で校種間に有意差がみられた。「かなり取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」を合わせると、「A. アクティブラーニング」に取り組んでいると回答したのは、小学校の教員が7割弱、中学校・高校が6割、特別支援学校が5割だった。

「B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業」は、特別支援学校で割合が低かった。「D. 観点別評価」に取り組んでいると回答したのは、中学校教員の割合が一番高く、8割弱、次に小学校の教員が7割、次いで高校が6割、特別支援学校の教員が一番低く、5割だった。調査時点において、高校で観点別評価は義務化されていないことには留意が必要である。

表10-2 校種別・「Q10 あなたは次のことにどのくらい取り組んでいますか」

	校種(N)	かなり取り組んでいる	やや取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	有意確率
A. アクティブラーニング	小学校(283)	12.7%	55.5%	25.1%	6.7%	<0.001
	中学校(289)	17.6%	48.4%	27.3%	6.6%	
	高等学校(278)	14.7%	47.8%	29.5%	7.9%	
	特別支援学校(262)	7.6%	42.4%	33.6%	16.4%	
B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業	小学校(283)	14.5%	42.4%	27.9%	15.2%	0.003
	中学校(289)	17.6%	41.5%	24.9%	15.9%	
	高等学校(278)	19.1%	38.1%	25.5%	17.3%	
	特別支援学校(262)	10.7%	31.3%	34.4%	23.7%	
C. ICT機器を用いた授業	小学校(283)	26.1%	52.3%	16.6%	4.9%	0.129
	中学校(289)	27.0%	47.4%	18.0%	7.6%	
	高等学校(278)	21.2%	47.5%	21.9%	9.4%	
	特別支援学校(262)	19.1%	51.1%	19.8%	9.9%	
D. 観点別評価	小学校(283)	25.1%	51.2%	18.0%	5.7%	<0.001
	中学校(289)	29.1%	49.5%	17.3%	4.2%	
	高等学校(278)	13.3%	41.0%	33.1%	12.6%	
	特別支援学校(262)	10.7%	50.8%	28.2%	10.3%	

(11) 教職に対する回答者の考え【Q11】

Q11では、A～Mに関する回答者の考えを4段階で回答してもらっている。表11-2に示した通り、「B. 教員は、経済的に恵まれた仕事だ」の回答で校種間に有意な差がみられた。「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせると、特別支援学校の教員が6割、高校・小・中学校が4割だった。

表11-2 校種別・「Q11 あなたの考えに一番近いものを選んで下さい」

	校種(N)	とてもそう 思う	ややそう思 う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	有意確率
A. 教員は、社会的 に尊敬される仕事 だ	小学校(283)	4.6%	45.9%	38.9%	10.6%	0.149
	中学校(289)	7.3%	38.8%	41.2%	12.8%	
	高等学校(278)	6.5%	42.8%	37.1%	13.7%	
	特別支援学校(262)	9.5%	35.5%	38.5%	16.4%	
B. 教員は、経済的 に恵まれた仕事だ	小学校(283)	2.1%	44.5%	39.6%	13.8%	<0.001
	中学校(289)	6.6%	38.4%	40.1%	14.9%	
	高等学校(278)	5.8%	41.7%	39.6%	12.9%	
	特別支援学校(262)	10.7%	50.4%	23.7%	15.3%	
C. 教員は、精神的 に気苦労の多い仕 事だ	小学校(283)	62.2%	27.6%	6.7%	3.5%	0.190
	中学校(289)	60.6%	28.0%	9.0%	2.4%	
	高等学校(278)	55.0%	36.7%	5.8%	2.5%	
	特別支援学校(262)	57.3%	32.8%	5.3%	4.6%	
D. 教員は、子ども に接する喜びのあ る仕事だ	小学校(283)	35.0%	51.6%	9.5%	3.9%	0.247
	中学校(289)	34.3%	47.4%	12.5%	5.9%	
	高等学校(278)	32.4%	52.5%	10.8%	4.3%	
	特別支援学校(262)	41.2%	42.4%	9.5%	6.9%	
E. 教員は、やりがい のある仕事だ	小学校(283)	35.7%	44.2%	12.7%	7.4%	0.260
	中学校(289)	31.5%	50.2%	14.2%	4.2%	
	高等学校(278)	32.7%	48.6%	13.3%	5.4%	
	特別支援学校(262)	38.5%	42.7%	10.3%	8.4%	
F. 教員は、自己犠 牲を強いられる仕 事だ	小学校(283)	44.2%	37.1%	14.8%	3.9%	0.322
	中学校(289)	38.8%	45.3%	12.8%	3.1%	
	高等学校(278)	37.8%	43.2%	16.5%	2.5%	
	特別支援学校(262)	35.1%	46.2%	13.7%	5.0%	
G. 教員は、自分の 考えにそって自律的 にやれる仕事だ	小学校(283)	11.3%	56.9%	25.1%	6.7%	0.139
	中学校(289)	11.4%	46.7%	32.9%	9.0%	
	高等学校(278)	9.4%	54.3%	29.1%	7.2%	
	特別支援学校(262)	8.0%	47.3%	35.1%	9.5%	
H. 教員は、高度の 専門的知識・技能が 求められる仕事だ	小学校(283)	30.7%	48.8%	15.9%	4.6%	0.447
	中学校(289)	28.7%	54.7%	12.8%	3.8%	
	高等学校(278)	26.3%	56.1%	15.5%	2.2%	
	特別支援学校(262)	31.7%	53.1%	11.1%	4.2%	
I. 教員は、高い倫理 観が強く求められる 仕事だ	小学校(283)	38.9%	46.3%	10.2%	4.6%	0.882
	中学校(289)	33.9%	51.9%	10.4%	3.8%	
	高等学校(278)	39.2%	46.8%	10.4%	3.6%	
	特別支援学校(262)	35.1%	50.4%	9.2%	5.3%	
J. 教員は、「自分ら しさ」を表現できる 仕事だ	小学校(283)	15.2%	49.8%	25.4%	9.5%	0.227
	中学校(289)	15.6%	47.4%	27.0%	10.0%	
	高等学校(278)	13.3%	50.0%	28.1%	8.6%	
	特別支援学校(262)	8.8%	45.8%	34.4%	11.1%	
K. 教員は、はっきり とした成果を問わ れる仕事だ	小学校(283)	12.0%	44.2%	35.7%	8.1%	0.050
	中学校(289)	11.1%	43.3%	37.0%	8.7%	
	高等学校(278)	5.8%	39.9%	45.7%	8.6%	
	特別支援学校(262)	14.5%	42.7%	34.0%	8.8%	
L. 教員は、割り当て られた役割に専心 する仕事だ	小学校(283)	11.3%	53.7%	29.0%	6.0%	0.068
	中学校(289)	11.1%	45.7%	32.5%	10.7%	
	高等学校(278)	7.2%	43.9%	37.1%	11.9%	
	特別支援学校(262)	11.8%	48.1%	31.7%	8.4%	
M. 教員は、教師以 外の人々との関係 づくりが欠かせない 仕事だ	小学校(283)	26.1%	53.0%	15.5%	5.3%	0.093
	中学校(289)	26.0%	49.8%	19.4%	4.8%	
	高等学校(278)	20.1%	54.3%	21.2%	4.3%	
	特別支援学校(262)	32.8%	47.3%	14.5%	5.3%	

(12) 教職生活に関する現時点の考え【Q12】

Q12 では、教職生活にかかわる A～E の 5 項目について、現時点で、どのように考えているかを 4 段階で尋ねている(表 12-2)。校種別のクロス集計の結果、「C. 毎日が忙しい」以外は、統計的に有意な差は確認されなかった。

「とてもそう思う」と答えた割合をみると、「A.教師になってよかった」、「E.やりがいを感じる」、「慢性的に疲れを感じる」の3項目は、2～4割の回答割合で校種による大きな差はない。有意差があった「毎日が忙しい」は、中学校と特別支援学校は4割、高校は3割だが、小学校は5割を超え顕著に高い。

次に、「とても＋ややそう思う」の合計で校種別の結果を確認する。有意差があった「C. 毎日が忙しい」は、小学校が最も高く、次いで特別支援学校、中学校、高校の順にやや低くなるものの、高校以外は8割前後の高い回答割合である。その一方で、「D.教師を辞めたい」は、4校種ともに4割前後にとどまっている。

表12-2 校種別・「Q12 あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか」

	校種(N)	とてもそう 思う	ややそう思 う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	有意確率
A. 教師になってよ かった	小学校(283)	23.0%	53.4%	14.1%	9.5%	0.284
	中学校(289)	30.8%	45.7%	16.6%	6.9%	
	高等学校(278)	31.3%	46.4%	14.4%	7.9%	
	特別支援学校(262)	31.3%	47.3%	11.8%	9.5%	
B. 慢性的に疲れを 感じる	小学校(283)	42.8%	36.4%	17.0%	3.9%	0.216
	中学校(289)	36.3%	40.1%	18.3%	5.2%	
	高等学校(278)	33.1%	41.4%	22.3%	3.2%	
	特別支援学校(262)	34.0%	45.8%	16.4%	3.8%	
C. 毎日が忙しい	小学校(283)	51.2%	35.7%	10.2%	2.8%	0.002
	中学校(289)	42.6%	40.1%	14.5%	2.8%	
	高等学校(278)	32.4%	46.4%	19.1%	2.2%	
	特別支援学校(262)	43.9%	41.2%	11.5%	3.4%	
D. 教師を辞めたい	小学校(283)	15.2%	29.7%	35.3%	19.8%	0.255
	中学校(289)	12.8%	24.9%	34.6%	27.7%	
	高等学校(278)	11.5%	26.6%	40.6%	21.2%	
	特別支援学校(262)	13.0%	23.7%	35.9%	27.5%	
E. やりがいがある	小学校(283)	30.4%	47.3%	14.8%	7.4%	0.759
	中学校(289)	29.8%	48.1%	15.9%	6.2%	
	高等学校(278)	27.0%	48.9%	18.7%	5.4%	
	特別支援学校(262)	29.8%	44.3%	16.8%	9.2%	

(13) 負担を感じる職務【Q13】

Q13 では、負担を感じる職務について「その他」「負担を感じるものがない」を含む 10 項目から該当するものをすべて選んでもらった。校種別では、表 13-2に示すように、10項目中5項目で統計的に有意な差がみられた。表の上から順に「生徒指導」「授業準備」「校務分掌」「部活動」「調査・報告書等の事務作業」の5つである。

回答割合が高かった理由を上位から順にみると、トップは4校種とも「保護者への対応」で5割から6割で並んでいる。中学校・高校・特別支援学校は5割で3校種による差はないものの、小学校は6割と有意に高い。2番目は、小学校で「生徒指導」、特別支援学校で「校務分掌」と項目に入れ替えがあるものの5割前後、中学校と高校は「部活動」がともに4割を上回っている。3番目は、小学校・中学校・特別支援学校が「調査・報告書等の事務作業」、高校が「生徒指導」と校種によって多少順位が異なっている回答となっている。なお、「管理職への対応」「負担を感じるものがない」「管理職業務」「その他」は、いずれも1割から2割と低い回答であった。

表13-2 校種別・「Q13 あなたが負担に感じる項目をすべて選んで下さい」

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	有意確率
N	283	289	278	262	
生徒指導	55.1%	45.0%	41.7%	25.2%	<0.001
授業準備	35.0%	23.2%	18.3%	35.9%	<0.001
校務分掌	39.9%	33.2%	32.7%	49.6%	<0.001
部活動	10.2%	46.0%	46.8%	11.8%	<0.001
保護者への対応	66.4%	55.0%	52.2%	51.1%	0.001
管理職への対応	18.0%	21.1%	18.7%	19.5%	0.809
管理職業務	12.4%	6.6%	7.2%	7.6%	0.052
調査・報告等の事務作業	45.6%	45.3%	40.6%	45.0%	0.601
その他	2.5%	1.7%	2.9%	3.8%	0.499
負担を感じるものがない	7.4%	10.0%	8.3%	9.5%	0.684

(14) 教師を辞めたいと思ったことがあるか【Q14】

Q14 では、先の Q12 とは異なり、現在ではなく過去に教師を辞めたいと思ったことの有無を尋ねている。表 14-2 に示すように、校種別のクロス集計では統計的有意な差はないが、辞めたいと思ったことが「ある」と回答した割合は、小学校が7割で最も高い。中学校・高校・特別支援学校はほぼ6割強で3校種に差はなく、小学校よりおよそ8ポイント低い。

表14-2 校種別・「Q14 あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか」

	N	ある	ない	有意確率
小学校	283	70.0%	30.0%	0.163
中学校	289	62.6%	37.4%	
高等学校	278	63.3%	36.7%	
特別支援学校	262	61.8%	38.2%	

(15) 教師を辞めたいと思った理由【Q15】

Q15 では、Q14 で「ある」の回答した者に辞めたいと思った理由について、「その他」を含む6項目から該当するものすべてを選んでもらった。

校種別では、表 15-2 に示すように、「出産したから」のみに統計的有意差が確認された。「出産したから」は、小学校で2割弱ともっとも高いが、中学校・高校・特別支援学校は小学校より6～12ポイント低かった。なお、有意差はないが、「職務上の理由」が6項目中で辞めたいと思った理由の最多で、高校・小学校・中学校が6割前後、特別支援学校が5割弱で半数を大きく超えて高かった。残り4項目の「介護を抱えたたら」「転職を考えたから」「自分自身の病気のため」「その他」は校種で差がほとんどなく、いずれも2割以下の回答であった。

表15-2 校種別・「Q15(Q14が「ある」の場合)それはなぜですか(複数回答)」

	N	出産したから	介護を抱えたから	転職を考えたから	職務上の理由	自分自身の病気のため	その他
小学校	198	16.2%	4.5%	18.2%	60.1%	19.7%	12.1%
中学校	181	10.5%	3.3%	21.5%	58.6%	17.7%	14.4%
高等学校	176	4.0%	1.7%	20.5%	61.9%	15.9%	14.2%
特別支援学校	162	10.5%	6.8%	11.7%	54.9%	19.1%	15.4%
有意確率		0.002	0.111	0.088	0.605	0.990	0.829

3. 回答者の状況(Q16～Q44)

本調査では、「あなたについてお尋ねします」として、回答者の置かれている状況について、Q15から Q44 まで尋ねた。以下では、これらの校種別クロス集計の結果をみていく。

(1) 現在の勤務先都道府県【Q16】

Q16 では、現在の勤務先都道府県名を尋ねている。表 16-2は、記入された都道府県を「北海道東北」「関東」「中部」「近畿」「中国四国」「九州沖縄」地方の6つにカテゴライズし、校種別のクロス集計の結果を示している。表にみるように、統計的に有意な差はないものの、4校種で若干の違いが確認された。上位の2地方は、小学校が「中部」、次いで「関東」地方がそれぞれ2割強、中学校・高校・特別支援学校も「関東」に次いで「中部」地方が3割～2割で、下位2地方は、小学校・中学校・高校は「中国四国」と「九州沖縄」地方が1割、特別支援学校は「北海道東北」と「九州沖縄」地方であった。結果、本調査の回答者の約半数は、関東と中部地方の勤務者となる。

表16-2 校種別・「Q16 現在の勤務先都道府県はどこですか。」

	N	北海道東北 地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国四国地 方	九州沖縄地 方	有意確率
小学校	283	14.8%	22.3%	25.1%	17.7%	11.3%	8.8%	0.135
中学校	289	15.2%	29.1%	19.7%	15.6%	7.3%	13.1%	
高等学校	278	16.2%	32.4%	17.3%	15.5%	8.3%	10.4%	
特別支援学校	262	10.7%	30.5%	21.0%	14.9%	11.8%	11.1%	

(2) 現在勤めている都道府県での勤務年数【Q17】

Q17 では、現在勤めている都道府県で何年目の勤務かを尋ねている。回答があった実年数を、中央値を確認したうえで、「10 年以内」、「11 年以上 20 年以内」、「21 年以上 30 年以内」、「31 年以上」に4つにカテゴライズしている。

表 17-2に示すように、校種での統計的な有意差は確認されなかった。勤務年数の中央値も校種で差がなく、小学校・中学校・高校は 17 年、特別支援学校は2年少なく 15 年である。また、どの校種も「10 年以内」が3割強から4割で多く、「21 年以上 30 年以内」は1割から2割弱と少ない。なお、特別支援学校は、「31 年以上」が2割以下と、4校種の中で最小である一方で、「10 年以内」が4割を超えており、比較的浅い経験年数となっている。

表17-2 校種別・「Q17 現在勤めている都道府県で何年目の勤務ですか」

	N	中央値	10年以内	11年以上 20年以内	21年以上 30年以内	31年以上	有意確率
小学校	283	17	36.0%	21.6%	11.3%	31.1%	0.074
中学校	289	17	36.0%	21.5%	17.0%	25.6%	
高等学校	278	17	34.5%	21.2%	19.8%	24.5%	
特別支援学校	262	15	40.5%	22.1%	17.9%	19.5%	

(3) これまでの教員歴【Q18】

Q18 では、これまでの教員歴(年数)について、臨時採用(非常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。表 18-2-1 は、「非常勤の期間はなし」、「1年」、「2～5年」、「6年以上」の4つにカテゴリズしている。

表に示すように、校種別で統計的有意差が確認された。まず、非常勤での臨時採用歴の中央値は、4校種すべてで0年であった。6割から7割強が「非常勤の期間はなし」と回答しているものの、小学校、特別支援学校、中学校、高校の順でその割合は下がる傾向が確認された。また、経験年数「6年以上」は、中学校と高校で1割前後であった。なお、3割から4割が経験している臨時採用(非常勤)としての年数の最多は、小学校・中学校・高校が「2～5年」、特別支援学校が「1 年」となっている。

表18-2-1 校種別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(非常勤))」

	N	中央値	非常勤の期 間はなし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
小学校	283	0	77.0%	7.4%	10.6%	4.9%	<0.001
中学校	289	0	64.7%	10.4%	15.2%	9.7%	
高等学校	278	0	60.8%	11.9%	16.9%	10.4%	
特別支援学校	262	0	69.8%	14.9%	12.2%	3.1%	

つづいて、臨時採用(常勤)年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。表 18-2-2は、「非常勤の期間はなし」、「1年」、「2～5年」、「6年以上」の4つにカテゴリズしている。

表に示すように、校種別での統計的有意差が確認された。まず、臨時採用(常勤)での中央値は、小学校・中学校・高校の3校種で0年だが、特別支援学校は1年であった。5割弱から6割強が「非常勤の期間はなし」と回答しているものの、中学校、小学校、高校、特別支援学校の順でその割合が下がっており、中学校と特別支援では15ポイントの開きがあった。なお、「経験年数6年以

上」については、特別支援学校の半数が臨時採用(常勤)経験を有し、他の3校種の2倍と多い。

表18-2-2 校種別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(臨時採用(常勤))」

	N	中央値	臨時採用(常勤)の期間はなし	1年	2～5年	6年以上	有意確率
小学校	283	0	63.3%	13.4%	17.7%	5.7%	0.001
中学校	289	0	63.7%	14.9%	14.9%	6.6%	
高等学校	278	0	58.3%	14.7%	21.9%	5.0%	
特別支援学校	262	1	48.9%	13.4%	25.2%	12.6%	

次に、本採用年数を尋ね、実年数で回答してもらっている。表 18-2-3は、中央値を確認後、「本採用の期間はなし」、「1～10年」、「11～20年」、「21～30年」、「31年以上」の5つにカテゴライズしている。

表に示すように、校種別での統計的有意差は確認されなかった。中央値は、高校が 17 年で最も高く、次いで小学校・中学校は 15 年、特別支援学校は 12 年で、校種間に違いがある。教員歴については、4校種ともに、「本採用の期間はなし」が1割前後と少ない。小学校は「31年以上」に3割、中学校・高校・特別支援学校は「1～10 年」に3割前後が多く回答していることから、小学校はベテラン教員、その他3校種は10年未満の若い回答者がやや多い傾向が読み取れる。「11～20 年」と「21～30年」はどちらも校種に差はなく2割以下であった。

表18-2-3 校種別・「Q18これまでの教員歴(年数)をお答え下さい(本採用)」

	N	中央値	本採用の期間はなし	1～10年	11～20年	21～30年	31年以上	有意確率
小学校	283	15	11.7%	27.2%	19.4%	12.0%	29.7%	0.081
中学校	289	15	11.4%	30.4%	16.6%	17.3%	24.2%	
高等学校	278	17	13.3%	25.5%	16.9%	19.4%	24.8%	
特別支援学校	262	12	12.6%	33.2%	17.9%	19.1%	17.2%	

(4) 正規採用までに何回採用試験を受けたか【Q19】

Q19 では、正規の採用までに、何回、採用試験を受けたかを、0から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、回答の度数分布の状況をもとに回答を4つにカテゴライズして校種別クロス集計を行っている。表 19-2に示すように、全校種を通じて最も多かったのは「1回」で、4割強から6割が該当した。次いで多いのは「3～5回」で、2割弱から2割半ばである。その後が続くのは「2回」で、2割前後である。校種別の正規採用までの受験回数では、統計的な有意差が認め

られ、正規採用までの受験回数が「1回」の割合は小学校で高く、受験回数が複数回になると、特別支援学校教員の回答がやや高い傾向がみられた。

表19-2 校種別・「Q19あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか」

	N	1回	2回	3～5回	6回以上	有意確率
小学校	250	60.0%	20.8%	16.0%	3.2%	0.006
中学校	256	57.4%	16.0%	18.4%	8.2%	
高等学校	241	54.4%	20.3%	19.1%	6.2%	
特別支援学校	229	43.2%	22.7%	25.8%	8.3%	

(5) 教員以外のキャリアはあるか【Q20】

Q20 では、教員以外のキャリア経験の有無について尋ねている。表 20-2 に示すように、教員以外のキャリア経験の有無については、全校種を通じて「ない」と回答したものがおおむね7割以上であり、統計的な有意差はみられない。

表20-2 校種別・「Q20教員以外のキャリアの経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
小学校	283	24.0%	76.0%	0.351
中学校	289	30.1%	69.9%	
高等学校	278	28.1%	71.9%	
特別支援学校	262	25.2%	74.8%	

(6) 教職を一度退職して再度教職に就いたことはあるか【Q21】

Q21 では、教職を一度退職して再度教職に就いたことがあるかどうかを尋ねている。表 21-2 に示すように、教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験が「ない」ものは、全校種で8割以上にのぼり、統計的な有意差はみられない。

表21-2 校種別・「Q21教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
小学校	283	16.3%	83.7%	0.731
中学校	289	15.9%	84.1%	
高等学校	278	14.0%	86.0%	
特別支援学校	262	17.6%	82.4%	

(7) 他都道府県で就職、退職し、他都道府県に就職した経験【Q22】

Q22 では、他都道府県で就職し、退職後、他都道府県に就職した経験を尋ねている。表 22-2 に示すように、他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験が「ない」ものは、各校種とも8割以上にのぼり、統計的な有意差はみられない。

表22-2 校種別・「Q22他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか」

	N	ある	ない	有意確率
小学校	283	14.1%	85.9%	0.845
中学校	289	12.8%	87.2%	
高等学校	278	15.1%	84.9%	
特別支援学校	262	13.0%	87.0%	

(8) 現在の勤務先での採用形態【Q23】

Q23 では、現在の勤務先での採用形態を尋ねている。表 23-2 に示すように、全校種で7割以上が本採用であり、1割から1割半ばが臨時採用・非常勤、1割弱から1割強が臨時採用・常勤である。校種別による現在の勤務先での採用形態については、統計的な有意差はみられない。

表23-2 校種別・「Q23現在の勤務先での採用形態をお答え下さい」

	N	本採用	臨時採用・ 常勤	臨時採用・ 非常勤	その他	有意確率
小学校	283	76.7%	9.9%	11.3%	2.1%	0.290
中学校	289	76.5%	8.0%	14.9%	0.7%	
高等学校	278	75.2%	7.6%	16.2%	1.1%	
特別支援学校	262	76.3%	11.5%	11.8%	0.4%	

(9) 勤務校の設置形態【Q24】

Q24 では、勤務校の設置形態を尋ねている。表 24-2 に示すように、勤務校の設置形態は全校種で公立が最も多く、おおよそ7割から9割以上を占め、私立は2割から3割弱、国立はおおよそ1割からそれ以下である。小学校や特別支援学校では9割以上が公立であるが、高校では3割弱が私立であり、統計的有意有確率が認められる。

表24-2 校種別・「Q24勤務校の設置形態をお答え下さい」

	N	国立	公立	私立	有意確率
小学校	283	1.1%	96.1%	2.8%	<0.001
中学校	289	1.4%	83.0%	15.6%	
高等学校	278	2.5%	69.1%	28.4%	
特別支援学校	262	3.4%	94.3%	2.3%	

(10) 現在の職名【Q25】

Q25では、教員の現在の職名について尋ねている。表 25-2 に示すように、統計的有意差がみられた。全校種で最も多い職名は「教諭」であるものの、中・高校・特別支援学校では6割強から7割近くである一方、小学校は5割強と少ない傾向がある。また、「校長・副校長・教頭」は全般的に少ないものの、小学校の割合は他の校種と比較すると高く、他校種が1割に満たない一方で、小学校は1割強である。

表25-2 校種別・「Q25あなたの現在の職名をお答え下さい」

	N	校長・副校長・教頭	主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など	教諭	臨時採用・臨時講師	その他	有意確率
小学校	283	12.7%	15.9%	53.0%	16.6%	1.8%	<0.001
中学校	289	5.5%	12.8%	61.6%	16.6%	3.5%	
高等学校	278	2.9%	10.1%	66.9%	17.6%	2.5%	
特別支援学校	262	4.2%	9.2%	67.9%	17.6%	1.1%	

(11) 現在学級担任をしているか【Q26】

Q26では、現在学級担任をしているかどうかを尋ねている。表 26-2 に示すように、統計的有意差がみられ、小学校と特別支援学校では学級担任を「している」割合が5割を超えている一方、中学校と高校では「していない」割合の方が高く、6割強から7割近くにおよぶ。

表26-2 校種別・「Q26あなたは現在学級担任をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
小学校	283	50.5%	49.5%	<0.001
中学校	289	35.6%	64.4%	
高等学校	278	30.6%	69.4%	
特別支援学校	262	54.6%	45.4%	

(12) 現在部活動の顧問をしているか【Q27】

Q27では、現在部活動の顧問をしているかどうかを尋ねている。表 27-2 に示すように、統計的有意差がみられ、部活動の顧問を「している」と回答したのは小学校で1割弱、特別支援学校で1割半ばにとどまる一方、中学校では6割弱、高校では7割弱である。

表27-2 校種別・「Q27あなたは現在部活動の顧問をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
小学校	283	8.1%	91.9%	<0.001
中学校	289	58.5%	41.5%	
高等学校	278	66.9%	33.1%	
特別支援学校	262	14.5%	85.5%	

(13) 現在教職大学院に在学しているか【Q28】

Q28では、現在教職大学院に在学しているかを尋ねている。表 28-2 に示すように、校種の違いにかかわらず9割以上が教職大学院には在学しておらず、統計的有意差もみられない。

表28-2 校種別・「Q28あなたは現在教職大学院に在学していますか」

	N	している	していない	有意確率
小学校	283	1.1%	98.9%	0.648
中学校	289	2.4%	97.6%	
高等学校	278	1.8%	98.2%	
特別支援学校	262	1.5%	98.5%	

(14) 担当教科(中・高のみ)【Q29】

Q29では、中学校・高校教員を対象に、担当教科を尋ねている。表 29-2 に示すように、いくつかの教科で校種間による統計的有意差がみられる。まず、数学、家庭科・技術家庭科、情報、特別の教科道徳は中学校の割合が高く、専門学科の教科は高校の割合が高い傾向がある。

表29-2 校種別・「Q29中・高の先生方にお尋ねします。
担当教科をお答え下さい(複数回答)」

	中学校	高等学校	有意確率
N	289	278	
国語	11.4%	14.7%	0.263
社会・地理歴史・公民	11.1%	12.2%	0.696
数学	20.8%	12.9%	0.014
理科	14.5%	11.5%	0.319
音楽	6.2%	4.3%	0.351
美術・芸術	3.1%	1.4%	0.262
保健体育	7.3%	8.3%	0.754
家庭科・技術家庭科	10.0%	2.5%	<0.001
英語(外国語)	18.3%	19.8%	0.670
情報	0.3%	6.1%	<0.001
総合的な学習(探究)の時間	11.1%	6.5%	0.056
特別の教科道徳	10.0%	0.4%	<0.001
専門学科の教科(商業・工業・農業・水産など)	0.3%	9.7%	<0.001
その他	5.2%	1.4%	0.018

(15) 担当教科のネットワークについて【Q30】

Q30 では、担当教科の学内外のネットワークの有無について尋ねている。表 30-2 に示すように、担当教科の学校内外のネットワークの有無には統計的有意差がみられる。担当教科のネットワークが「ある」と答えたのは、小・中・高校で5割以上である一方、特別支援学校では3割弱と低い。他方、学校内外のネットワークが「ない」と答えたのは小・中・高校で4割台である一方、特別支援学校では6割弱と高い割合となっている。

表30-2 校種別・「Q30 担当教科の学校内外のネットワークはありますか」

	N	ある	ない	有意確率
小学校	202	53.5%	46.5%	0.006
中学校	258	58.9%	41.1%	
高等学校	260	53.1%	46.9%	
特別支援学校	177	41.8%	58.2%	

(16) これまでの異動経験回数【Q31】

Q31 では、これまでの異動経験の回数について、0から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、度数分布の状況をもとに回答を4つにカテゴライズして男女別クロス集計を行っている。表 31-2 に示すように、校種間で統計的有意差がみられ、全般的に全ての校種で「2～5回」が最も多いが、特に、高校や特別支援学校は5割を超えている。小学校では、異動経験が「6回以上」が他校種よりも多く、3割以上である。「一度もない」割合は高校が他校種よりも多く、他校種が1割台である一方、高校は2割以下である。

表31-2 校種別・「Q31これまで、異動は何回経験しましたか」

	N	中央値	一度もない	1回	2～5回	6回以上	有意確率
小学校	283	4	13.1%	13.1%	37.5%	36.4%	<0.001
中学校	289	4	17.0%	11.8%	42.6%	28.7%	
高等学校	278	3	23.0%	12.6%	50.7%	13.7%	
特別支援学校	262	3	14.9%	17.9%	50.8%	16.4%	

(17) これまでの転居を伴う異動経験回数【Q32】

Q32 では、転居を伴う異動の経験回数について、0から 100 までの実数で回答してもらっている。分析では、度数分布の状況をもとに回答を4つにカテゴライズして男女別クロス集計を行っている。表 32-2 に示すように、校種間で統計的有意差はみられず、どの校種も転居を伴う異動経験が「1 度もない」割合が最も高い。

表32-2 校種別・「Q32これまで、転居を伴う異動は何回経験しましたか」

	N	一度もない	1回	2回	3回以上	有意確率
小学校	283	62.2%	16.6%	8.8%	12.4%	0.457
中学校	289	57.1%	19.7%	8.3%	14.9%	
高等学校	278	57.6%	19.1%	12.2%	11.2%	
特別支援学校	262	53.8%	18.7%	11.1%	16.4%	

(18) 現在担っている主任または主事の役割【Q33】

Q33 では、現在担っている主任または主事の役割を尋ねている。回答は、「教務主任」から「担っていない」を含む7項目から該当するものすべてを選択してもらった(表 33-2)。

どの校種も「主任または主事の役割を担っていない」が5割以上と多く、これに「学年主任」が続く。一方、小学校では、「教務主任」「学年主任」「生徒指導主事」が他の校種よりも割合が高く、特に「学年主任」が2割を超えている。

表33-2 校種別・「Q33あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか(当てはまるものすべて)」

	N	教務主任	学年主任	保健主事	生徒指導主事	進路指導主事	その他の主任・主事の役割	担っていない
小学校	195	9.7%	21.5%	2.1%	8.2%	1.0%	10.3%	54.9%
中学校	215	6.0%	15.3%	3.3%	6.5%	8.8%	8.4%	57.7%
高等学校	214	4.7%	10.7%	2.3%	3.3%	5.1%	10.3%	67.3%
特別支援学校	202	3.5%	14.9%	3.0%	4.5%	4.0%	8.4%	66.3%
有意確率		0.048	0.027	0.865	0.135	0.003	0.835	0.019

(19) 平均的な1日の在職時間【Q34】

Q34 では、平均的な1日の在職時間について「8時間未満」から「16 時間以上」の6段階から回答を得た結果をみる(表 34-2)。

どの校種も「8時間以上 10 時間未満」が多く、特に特別支援学校では5割と多い。これに「10 時間以上 12 時間未満」が続き、中学校では約3割強であった。さらに、「12 時間以上」は小学校、中学校で1割強と他の校種より若干高い。一方、「8時間未満」は特別支援学校が1割強と若干低いものの、どの校種も2割程度であった。

表34-2 校種別・「Q34あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか」

	N	8時間未満	8時間以上 10時間未 満	10時間以上 12時間未 満	12時間以上 14時間未 満	14時間以上 16時間未 満	16時間以上	有意確率
小学校	283	21.2%	36.0%	28.6%	10.6%	1.8%	1.8%	<0.001
中学校	289	22.1%	31.5%	30.8%	11.4%	1.7%	2.4%	
高等学校	278	23.7%	44.2%	25.5%	4.7%	0.7%	1.1%	
特別支援学校	262	17.2%	50.4%	26.0%	2.7%	0.4%	3.4%	

(20) 通勤時間【Q35】

Q35 では、「通勤時間はどのくらいか」を「30 分未満」から「2時間以上」の5段階から回答してもらった。

最も回答割合が高いのは「30 分未満」で小学校が約6割、中学校が約4割であるのに対し、「30 分以上1時間未満」は高校や特別支援学校が約4割であった。

表35-2 校種別・「Q35あなたの通勤時間はどのくらいですか」

	N	30分未満	30分以上1 時間未満	1時間以上1 時間30分未 満	1時間30分 以上2時間未 満	2時間以上	有意確率
小学校	283	63.6%	26.9%	7.8%	0.7%	1.1%	<0.001
中学校	289	43.6%	39.8%	14.9%	1.0%	0.7%	
高等学校	278	38.1%	39.6%	16.9%	5.0%	0.4%	
特別支援学校	262	35.1%	44.7%	14.1%	1.9%	4.2%	

(21) 配偶者の有無【Q36】

Q36 では、「配偶者がいるか(事実婚を含む)」を尋ねた。どの校種も「配偶者がいる」が約7割で、特に小学校では約8割と最も高い。

表36-2 校種別・「Q36あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)」

	N	いる	いない	有意確率
小学校	283	79.5%	20.5%	0.039
中学校	289	74.0%	26.0%	
高等学校	278	69.1%	30.9%	
特別支援学校	262	72.1%	27.9%	

(22) 配偶者の職種および就労形態【Q37】

Q37 では、Q36 で「配偶者がいる」と回答した者に対し、「配偶者の職種、就労状況および就労形態」を尋ねた。「配偶者が教員ではない」割合は、高校が7割以上と高いが、その他の校種も6割以上であった。

表37-2 校種別・「Q37(Q36で「いる」場合)配偶者の職種、就労状況および就労形態」

	N	教員	教員ではない	有意確率
小学校	225	35.1%	64.9%	0.357
中学校	214	32.7%	67.3%	
高等学校	192	27.1%	72.9%	
特別支援学校	189	32.8%	67.2%	

(23) 配偶者が教員の場合、本務教員か否か【Q38】

Q38 では、Q37 で「教員」と回答した者に対し、「本務教員」か「臨時採用・臨時講師等の兼務教員」かを尋ねた。どの校種も「本務教員」が8割以上で、特に、高校や中学校は9割と高い。

表38-2 校種別・「Q38(Q37で「教員」の場合)次のどちらに当てはまりますか」

	N	本務教員	臨時採用・臨時講師等の兼務教員	有意確率
小学校	79	87.3%	12.7%	0.403
中学校	70	91.4%	8.6%	
高等学校	52	94.2%	5.8%	
特別支援学校	62	85.5%	14.5%	

(24) :配偶者が教員でない場合の就労形態等【Q39】

Q39 では、Q37 で「教員ではない」と回答した者に対し、「無職」から「その他」を含む5項目から選択してもらった(表 39-2)。

どの校種も「正規雇用者」が約4割と多く、これに「無職」が約2割強と続く。また「非正規雇用者」

も約2割であった。

表39-2 校種別・「Q39(Q37が「教員ではない」の場合)当てはまるものを選んで下さい」

	N	無職	正規雇用者	非正規雇用者	自営・家族従業・自由業	その他	有意確率
小学校	146	26.7%	40.4%	19.9%	11.6%	1.4%	0.563
中学校	144	27.8%	41.0%	25.7%	5.6%	0.0%	
高等学校	140	27.9%	38.6%	20.7%	10.7%	2.1%	
特別支援学校	127	20.5%	40.9%	24.4%	11.8%	2.4%	

(25) 家事・育児・介護等の役割をどの程度担っているか【Q40】

Q40 では、「現在、家事・育児・介護等の家庭の役割をどの程度になっているか(家庭に必要な労力を 100%として)を、「ほとんどしている」から「ほとんどしていない」までの5段階から選択してもらった(表 40-2)。

どの校種も「ほとんどしている(90～100%程度)」が約2割強と高かった。「ほとんどしている(90～100%程度)」と「半分以上はしている(60～80%程度)」を合わせると、どの校種も約4割であった。「ほとんどしていない(0～10%程度)」は小学校や高校が2割強で若干多い。

表40-2 校種別・「Q40あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度になっていますか(家庭に必要な労力を100%として)」

	N	ほとんどあなたがしている(90～100%程度)	半分以上はあなたがしている(60～80%程度)	ほぼ半分あなたがしている(50%程度)	半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)	あなたはほとんどしていない(0～10%程度)	有意確率
小学校	283	24.0%	20.1%	12.4%	21.2%	22.3%	0.907
中学校	289	25.6%	19.4%	14.5%	21.8%	18.7%	
高等学校	278	25.5%	16.9%	11.5%	22.3%	23.7%	
特別支援学校	262	27.9%	21.0%	11.8%	20.6%	18.7%	

(26) 子どもがいるかどうか【Q41】

Q41 では、「子どもがいるかどうか」を尋ねた。「子どもがいる」は、小学校で最も多く約7割、中学校や特別支援学校では約6割、高校では約5割であった。

表41-2 校種別・「Q41あなたにはお子さんはいますか」

	N	いる	いない	有意確率
小学校	283	72.1%	27.9%	<0.001
中学校	289	65.1%	34.9%	
高等学校	278	54.0%	46.0%	
特別支援学校	262	61.1%	38.9%	

(27) 子どもの人数【Q42】

Q42 では、Q41 で「子どもがいる」と回答した者に対し、実数で回答してもらっている(表 42-2)。

表 42-2 に示すように回答者の子どもの数の中央値は二人であった。どの校種も「二人」が一番多く、4割を超える。これに「一人」が続き、小学校を除き、他の校種では3割以上であった。「三人以上」は中学校を除き、どの校種も2割以上であった。

表42-2 校種別・「Q42(Q41で「いる」場合)お子さんの数は何人ですか」

	N	中央値	一人	二人	三人以上	有意確率
小学校	204	2	27.5%	49.0%	23.5%	0.576
中学校	188	2	35.6%	45.7%	18.6%	
高等学校	150	2	33.3%	46.7%	20.0%	
特別支援学校	160	2	32.5%	43.1%	24.4%	

(28) 小学生未満の子どもがいるかどうか【Q43】

Q43 では、Q41 で「子どもがいる」と回答した者に対し、「小学生未満の子どもがいるか」を尋ねた(表 43-2)。

どの校種も「小学校の子どもがいない」が6割強以上であった。

表43-2 校種別・「Q43(Q41で「いる」場合)小学生未満のお子さんはいますか」

	N	いる	いない	有意確率
小学校	204	31.4%	68.6%	0.862
中学校	188	31.4%	68.6%	
高等学校	150	31.3%	68.7%	
特別支援学校	160	35.0%	65.0%	

(29) 現在、家族の介護をしているか【Q44】

Q44 では、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしているか」を尋ねた(表 44-2)。

どの校種も、「現在、家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていない」が約8割以上であった。
特に高校では9割強で最も多い。

表44-2 校種別・「Q44現在、ご家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていますか」

	N	している	していない	有意確率
小学校	283	14.5%	85.5%	0.096
中学校	289	10.4%	89.6%	
高等学校	278	7.9%	92.1%	
特別支援学校	262	11.1%	88.9%	

資料編

1. 調査票

教員のキャリア形成に関するアンケート

ご協力をお願い

この調査は、昨今の教育改革が、教員のキャリア形成に与える影響を捉えるため、教員の教育活動や日常を把握するものです。本調査で得られたデータはすべて本研究にのみ使用され、本研究組織以外の者に提供されることはありません。また、皆様のプライバシーには十分配慮いたします。調査で得たデータに基づく研究成果を公表する際も、個人が特定されるようなことはありません。調査へのご協力を、よろしくお願い申し上げます。

2022 年 2 月

教員のキャリア形成に関する研究会

問い合わせ先：木村育恵（北海道教育大学 教授）

本調査は、文部科学省科学研究費基金基盤研究(B)(JSPS21H00829)を受けて実施しています。

■ スクリーニング項目、必須項目

SC1 あなたの職業をお答え下さい。(養護教諭、栄養教諭はここで調査終了)

【入力必須項目】あなたの年齢をお答え下さい。

SC2 現在お勤めの学校種を回答して下さい。

1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校 4. 特別支援学校 5. その他()

SC3 あなたの自認する性別を回答して下さい。

1. 女性 2. 男性 3. その他()

SC4 あなたの教員免許状は次のどれですか。1 種と 2 種などのように複数所持の場合は、現在の職種に合った免許を選んで下さい。

1. 普通免許状(専修免許状) 2. 普通免許状(1 種免許状) 3. 普通免許状(2 種免許状)
4. 特別免許状 5. 臨時免許状 6. 当てはまるものがない

SC5 あなたの最終学歴は次のどれに当てはまりますか。

1. 4年制大学卒 2. 大学院修士課程修 3. 教職大学院修 4. 短期大学卒 5. その他
()

■ あなたの仕事や職場環境についてお尋ねします。

1. あなたは、1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか。
1. 本を読むことはほとんどない 2. 年に 1～5 冊 3. 年に 6～10 冊 4. 年に 11～20 冊
5. 年に 21～30 冊 6. 年に 31～40 冊 7. 年に 41～50 冊 8. 51 冊以上
2. 今年度(2021 年度)4月以降、あなたは、次の研修会に何回くらい参加しましたか。回数を書いて下さい。参加されていない場合は0をご記入下さい。
※0～100 の半角数字でご記入下さい。
A. 校内研修……()回
B. 研究授業……()回
C. 校内の自主的な勉強サークル…()回
D. 校外の自主的な勉強サークル……()回
E. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)……()回
F. 大学や民間団体等による研修……()回
3. これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか。
A. 校外の自主的な勉強サークル
B. 法定研修(初任者研修・10 年経験者研修)
C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)
D. 大学や民間団体等による研修
1. とても役に立った 2. やや役に立った 3. あまり役に立っていない 4. まったく役に立っていない 5. 参加していない
4. あなたは、60 歳時点で、どのような仕事をしたいですか。(当てはまるものひとつ)

1. 管理職 2. 教務主任 3. その他主任 4. 一般教員 5. 教育行政職員 6. その他()

5. 前問(4)で「2.教務主任」「3.その他主任」「4.一般教員」と回答した方にお尋ねします。
あなたが管理職や行政職になりたくない理由は何ですか。すべて選んで下さい。

1. ずっと子どもと接していたいから 2. 責任が重すぎるから 3. 仕事に魅力を感じないから
4. 授業を極めたいから 5. 部活動に関わりたいためから 6. 広域で異動させられるから
7. 学校外での教育活動や NPO・サークルに関わりたいためから 8. 家事・介護があるから 9.
十分に働いたから 10. その他()

6. あなたの同僚との関わり方に一番近いものを選んで下さい。

A. 同僚と学校を離れてもインフォーマルにつきあう
B. 同僚と教育観や教育方針について語り合う
C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする
D. 困った時に、同僚の教師から援助してもらった
E. 困っている教師を支援した
F. 同僚教師に指導・助言した
G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換をしたりする

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. まったくない

7. あなたの職場の雰囲気・状況に一番近いものを選んで下さい。

A. 校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている
B. 校長・教頭が勝手にことがらを決めたり進めたりする
C. 校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている
D. 最終的な責任は管理職がとる

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない

8. あなたの勤務校で次の項目はどのくらい取り組まれていますか。

A. 子ども・保護者による学校評価・教員評価

- B. 保護者・地域住民の学校参加
- C. 人事・給与と連動した教員評価
- D. 「全国学力・学習状況調査」の結果にもとづく学力向上策
- E. GIGA スクール構想
- F. 防災教育
- G. ICT を用いた「個別最適な学び」に向けた検討

1. かなり取り組んでいる 2. やや取り組んでいる 3. あまり取り組んでいない 4. まったく取り組んでいない

9. あなたの勤務校で次の項目はどのくらい取り組まれていますか。

- A. 男性の育児休業取得の推進
- B. 育児休業からの復帰に向けての支援
- C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止
- D. ジェンダーの視点を取り入れた教材開発・授業開発
- E. 積極的な研修への声かけや、受けられなかった研修の再申請のサポート
- F. 有給休暇取得の促進
- G. 介護と仕事の両立支援
- H. ワーク・ライフ・バランスに関する研修
- I. 管理職に向けた女性教員の育成
- J. 宿泊を伴う研修への女性の積極的な参加を促す

1. かなり取り組んでいる 2. やや取り組んでいる 3. あまり取り組んでいない 4. まったく取り組んでいない

10. あなたは次のことにどれくらい取り組んでいますか。

- A. アクティブラーニング
- B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業
- C. ICT 機器を用いた授業
- D. 観点別評価

1. かなり取り組んでいる 2. やや取り組んでいる 3. あまり取り組んでいない 4. まったく取り組んでいない

11. あなたの考えに一番近いものを選んで下さい。

- A. 教員は、社会的に尊敬される仕事だ
- B. 教員は、経済的に恵まれた仕事だ
- C. 教員は、精神的に気苦労の多い仕事だ
- D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ
- E. 教員は、やりがいのある仕事だ
- F. 教員は、自己犠牲を強いられる仕事だ
- G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ
- H. 教員は、高度の専門的知識・技能が求められる仕事だ
- I. 教員は、高い倫理観が強く求められる仕事だ
- J. 教員は、「自分らしさ」を表現できる仕事だ
- K. 教員は、はっきりとした成果を問われる仕事だ
- L. 教員は、割り当てられた役割に専心する仕事だ
- M. 教員は、教師以外の人々との関係づくりが欠かせない仕事だ

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない

12. あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか。

- A. 教師になってよかった
- B. 慢性的に疲れを感じる
- C. 毎日が忙しい
- D. 教師をやめたい
- E. やりがいがある

1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない

13. あなたが負担を感じる項目をすべて選んで下さい。

1. 生徒指導 2. 授業準備 3. 校務分掌 4. 部活動 5. 保護者への対応 6. 管理職への対応 7. 管理的業務 8. 調査・報告等の事務作業 9. その他() 10. 負担を感じるものがない

14. あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか。

1. ある 2. ない

15. 前問(14)で「1. ある」と回答した方にお尋ねします。それはなぜですか。

1. 出産したから 2. 介護を抱えたから 3. 転職を考えたから 4. 職務上の理由 5. 自身の病気のため 6. その他()

■ あなたについてお尋ねします。

16. 現在の勤務先都道府県はどこですか。

(プルダウン式で選択)

17. 現在、勤めている都道府県で何年目の勤務ですか。数字をご入力下さい。

※0～100 の半角数字でご記入下さい。

()年目

18. これまでの教員歴(年数)をお答え下さい。回答する時には、〇ヵ月は切り上げて下さい

(例:1 ヶ月→1 年)。ない方は 0 でお答え下さい。※(現在の採用形態を含む)

※0～100 の半角数字でご記入下さい。

臨時採用(非常勤)として()年

臨時採用(常勤)として()年

本採用として()年

19. あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか。回数をご入力下さい。

※0～100 の半角数字でご記入下さい。

()回

20. 教職以外のキャリアの経験はありますか。
1. ある 2. ない
21. 教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか。
1. ある 2. ない
22. 他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか。
1. ある 2. ない
23. 現在の勤務先での採用形態をお答え下さい。
1. 本採用 2. 臨時採用・常勤 3. 臨時採用・非常勤 4. その他()
24. 勤務校の設置形態をお答え下さい。
1. 国立 2. 公立 3. 私立
25. あなたの現在の職名をお答え下さい。
1. 校長・副校長・教頭 2. 主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など 3. 教諭
4. 臨時採用・臨時講師 5. その他()
26. あなたは現在学級担任をしていますか。
1. している 2. していない
27. あなたは現在部活動の顧問をしていますか。
1. している 2. していない
28. あなたは現在教職大学院に在学していますか。
1. している 2. していない
29. 中・高(中等教育学校を含む)の先生にお尋ねします。担当教科をお答え下さい。(当ては

まるものすべて)

1. 国語 2. 社会・地理歴史・公民 3. 数学 4. 理科 5. 音楽 6. 美術・芸術 7. 保健体育 8. 家庭科・技術家庭科 9. 英語(外国語) 10. 情報 11. 総合的な学習(探究)の時間 12. 特別の教科道徳 13. 専門学科の教科(商業・工業・農業・水産など) 14. その他
()

30. 担当教科の学校内外のネットワークはありますか。

1. ある 2. ない 3. 該当しない

31. これまで、異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。

※0～100 の半角数字でご記入下さい。

()回

32. これまで転居を伴う異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。

※0～100 の半角数字でご記入下さい。

()回

33. あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか。当てはまるものをすべて選んで下さい。担っていない場合には、「担っていない」を選んで下さい。

1. 教務主任 2. 学年主任 3. 保健主事 4. 生徒指導主事 5. 進路指導主事 6. その他の主任・主事の役割(具体的に:) 7. 担っていない

34. あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか。

1. 8時間未満 2. 8時間以上 10 時間未満 3. 10 時間以上 12 時間未満 4. 12 時間以上 14 時間未満 5. 14 時間以上 16 時間未満 6. 16 時間以上

35. あなたの通勤時間はどのくらいですか。

1. 30 分未満 2. 30 分以上 1 時間未満 3. 1 時間以上 1 時間 30 分未満
4. 1 時間 30 分以上 2 時間未満 5. 2 時間以上

36. あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)。

1. いる 2. いない

37. 前問(36)で「1. いる」を選択した場合、配偶者の職種、就労状況および就労形態について、次のうち、当てはまるものを選んで下さい。

1. 教員 2. 教員ではない

38. 前問(37)が「1. 教員」の場合、次のどちらに当てはまりますか。

- 1. 本務教員(校種: 、職名:)
- 2. 臨時採用・臨時講師等の兼務教員(校種:)

39. 前問(37)が「2. 教員ではない」の場合、当てはまるものを選んで下さい。

1. 無職 2. 正規雇用者 3. 非正規雇用者 4. 自営・家族従業・自由業 5. その他

40. あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度担っていますか。
(家庭に必要な総労力を 100%として)次のうち、当てはまるものを 1 つだけ選んで下さい。

1. ほとんどあなたがしている(90～100%程度) 2. 半分以上はあなたがしている(60～80%程度) 3. ほぼ半分あなたがしている(50%程度) 4. 半分以下だがあなたもしている(20～40%程度) 5. あなたはほとんどしていない(0～10%程度)

41. あなたにはお子さんはいますか。

1. いる 2. いない

42. 前問(41)で「1. いる」の場合、お子さんの数は何人ですか。

※0～100 の半角数字でご記入下さい。

()人

43. 前問(41)で「1. いる」の場合、小学生未満のお子さんはいますか。

1. いる 2. いない

44. 現在、ご家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていますか。

1. している 2. していない

45. 教員のキャリア形成についてご意見があれば自由にお書き下さい。(自由回答欄)

2. 基礎集計表

入力必須項目	あなたの年齢をお答え下さい。				平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース
					45.67	12.41	20.00	82.00	46.00	1112
					N (1112)	%				
SC2	現在お勤めの学校種を回答して下さい。	1	小学校	283	25.4					
		2	中学校	289	26.0					
		3	高等学校	278	25.0					
		4	特別支援学校	262	23.6					
		5	その他	0	0.0					
SC3	あなたの自認する性別を回答して下さい。	1	女性	563	50.6					
		2	男性	549	49.4					
		3	その他	0	0.0					
SC4	あなたの教員免許状は次のどれですか。1種と2種などのように複数所持の場合は、現在の職種に合った免許を選んで下さい。	1	普通免許状(専修免許状)	165	14.8					
		2	普通免許状(1種免許状)	781	70.2					
		3	普通免許状(2種免許状)	99	8.9					
		4	特別免許状	21	1.9					
		5	臨時免許状	10	0.9					
		6	当てはまるものがない	36	3.2					
SC5	あなたの最終学歴は次のどれに当てはまりますか。	1	4年制大学卒	914	82.2					
		2	大学院修士課程修了	125	11.2					
		3	教職大学院修了	22	2.0					
		4	短期大学卒	40	3.6					
		5	その他	11	1.0					
Q1	あなたは、1年間に本(教育雑誌を含む)を何冊読んでいますか。	1	本を読むことはほとんどない	223	20.1					
		2	年に1～5冊	360	32.4					
		3	年に6～10冊	161	14.5					
		4	年に11～20冊	152	13.7					
		5	年に21～30冊	75	6.7					
		6	年に31～40冊	37	3.3					
		7	年に41～50冊	26	2.3					
		8	年に51冊以上	78	7.0					
			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース		
Q2	今年度4月以降、あなたは、次の研修に何回くらい参加しましたか。回数をご入力ください。参加されていない場合は0をご記入下さい。	A	校内研修	5.91	7.99	0.00	100.00	4.00	1112	
		B	研究授業	2.43	5.01	0.00	100.00	1.00	1112	
		C	校内の自主的な勉強サークル	0.89	3.64	0.00	50.00	0.00	1112	
		D	校外の自主的な勉強サークル	0.97	3.83	0.00	66.00	0.00	1112	
		E	教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	1.41	2.88	0.00	50.00	0.00	1112	
		F	大学や民間団体等による研修	0.76	3.85	0.00	95.00	0.00	1112	
			N (1112)	%						
Q3	これまでの教員経験全体を振り返って、研修はどの程度役に立ちましたか。	A. 校外の自主的な勉強サークル	1	とても役に立った	137	12.3				
			2	やや役になった	386	34.7				
			3	あまり役に立っていない	122	11.0				
			4	まったく役に立っていない	38	3.4				
			5	参加していない	429	38.6				
		B. 法定研修(初任者研修・10年経験者研修)	1	とても役に立った	70	6.3				
			2	やや役になった	343	30.8				
			3	あまり役に立っていない	239	21.5				
			4	まったく役に立っていない	116	10.4				
			5	参加していない	344	30.9				
		C. 教育委員会主催の研修(法定研修を除く)	1	とても役に立った	85	7.6				
			2	やや役になった	375	33.7				
			3	あまり役に立っていない	234	21.0				
			4	まったく役に立っていない	116	10.4				
			5	参加していない	302	27.2				
		D. 大学や民間団体等による研修	1	とても役に立った	116	10.4				
			2	やや役になった	332	29.9				
			3	あまり役に立っていない	145	13.0				
			4	まったく役に立っていない	55	4.9				
			5	参加していない	464	41.7				

			N (926)	%	
Q4	あなたは、60歳時点で、どのような仕事をしたいですか。(あてはまるものひとつ)	1 管理職	112	12.1	
		2 教務主任	39	4.2	
		3 その他主任	107	11.6	
		4 一般教員	591	63.8	
		5 教育行政職員	29	3.1	
		6 その他	48	5.2	
			N (737)	%	
Q5	前問で「2. 教務主任」「3. その他主任」「4. 一般教員」と回答した方にお尋ねします。あなたが管理職や行政職になりたくない理由は何ですか。すべて選んで下さい。 【複数回答】	1 ずっと子どもと接していきたいから	393	53.3	
		2 責任が重すぎるから	252	34.2	
		3 仕事に魅力を感じないから	290	39.3	
		4 授業を極めたいから	111	15.1	
		5 部活動に関わりたいため	42	5.7	
		6 広域で異動させられるから	50	6.8	
		7 学校外での教育活動やNPO・サークルに関わりたいため	24	3.3	
		8 家事・介護があるから	151	20.5	
		9 十分に働いたから	90	12.2	
		10 その他	33	4.5	
			N (1112)	%	
Q6	あなたの同僚との関わり方に一番近いものを選んで下さい。	A. 同僚と学校を離れてもインフォーマルにつきあう	1 よくある	97	8.7
			2 たまにある	425	38.2
			3 あまりない	344	30.9
			4 まったくない	246	22.1
		B. 同僚と教育観や教育方針について語り合う	1 よくある	126	11.3
			2 たまにある	557	50.1
			3 あまりない	302	27.2
			4 まったくない	127	11.4
		C. 同僚の授業を見たり同僚があなたの授業を見たりする	1 よくある	143	12.9
			2 たまにある	538	48.4
			3 あまりない	305	27.4
			4 まったくない	126	11.3
		D. 困った時に、同僚の教師から援助してもらった	1 よくある	253	22.8
			2 たまにある	545	49.0
			3 あまりない	207	18.6
			4 まったくない	107	9.6
		E. 困っている教師を支援した	1 よくある	232	20.9
			2 たまにある	619	55.7
			3 あまりない	172	15.5
			4 まったくない	89	8.0
		F. 同僚教師に指導・助言した	1 よくある	170	15.3
			2 たまにある	559	50.3
			3 あまりない	259	23.3
			4 まったくない	124	11.2
		G. 同僚と教材を協働で作成したり、交換をしたりする	1 よくある	202	18.2
			2 たまにある	525	47.2
			3 あまりない	252	22.7
			4 まったくない	133	12.0
Q7	あなたの職場の雰囲気・状況に一番近いものを選んで下さい。	A. 校長・教頭と他の教職員との間で意思の疎通がうまく図られている	1 とてもそう思う	109	9.8
			2 ややそう思う	535	48.1
			3 あまりそう思わない	334	30.0
			4 まったくそう思わない	134	12.1
		B. 校長・教頭が勝手にことごとくを決めたり進めたりする	1 とてもそう思う	122	11.0
			2 ややそう思う	388	34.9
			3 あまりそう思わない	466	41.9
			4 まったくそう思わない	136	12.2
		C. 校長・教頭からの評価を気にして仕事をしている	1 とてもそう思う	58	5.2
			2 ややそう思う	245	22.0
			3 あまりそう思わない	496	44.6
			4 まったくそう思わない	313	28.1
		D. 最終的な責任は管理職がとる	1 とてもそう思う	336	30.2
			2 ややそう思う	517	46.5
			3 あまりそう思わない	186	16.7
			4 まったくそう思わない	73	6.6

Q8	あなたの勤務校で次の項目はどれくらい取り組まれていますか。	D. 「全国学力・学習状況調査」の結果にもとづく学力向上策	1	かなり取り組んでいる	82	7.4
			2	やや取り組んでいる	486	43.7
			3	あまり取り組んでいない	331	29.8
			4	まったく取り組んでいない	213	19.2
		E. GIGAスクール構想	1	かなり取り組んでいる	174	15.6
			2	やや取り組んでいる	508	45.7
			3	あまり取り組んでいない	289	26.0
			4	まったく取り組んでいない	141	12.7
		F. 防災教育	1	かなり取り組んでいる	150	13.5
			2	やや取り組んでいる	603	54.2
			3	あまり取り組んでいない	271	24.4
			4	まったく取り組んでいない	88	7.9
		G. ICTを用いた「個別最適な学び」に向けた検討	1	かなり取り組んでいる	174	15.6
			2	やや取り組んでいる	568	51.1
			3	あまり取り組んでいない	277	24.9
			4	まったく取り組んでいない	93	8.4
Q9	あなたの勤務校で次の項目はどれくらい取り組まれていますか。	A. 男性の育児休業取得の推進	1	かなり取り組んでいる	56	5.0
			2	やや取り組んでいる	331	29.8
			3	あまり取り組んでいない	451	40.6
			4	まったく取り組んでいない	274	24.6
		B. 育児休業の復帰に向けての支援	1	かなり取り組んでいる	74	6.7
			2	やや取り組んでいる	439	39.5
			3	あまり取り組んでいない	407	36.6
			4	まったく取り組んでいない	192	17.3
		C. (セクシュアル・マタニティ・パタニティ)ハラスメントの防止	1	かなり取り組んでいる	123	11.1
			2	やや取り組んでいる	545	49.0
			3	あまり取り組んでいない	311	28.0
			4	まったく取り組んでいない	133	12.0
		D. ジェンダーの視点を取り入れた教材開発・授業開発	1	かなり取り組んでいる	76	6.8
			2	やや取り組んでいる	400	36.0
			3	あまり取り組んでいない	454	40.8
			4	まったく取り組んでいない	182	16.4
		E. 積極的な研修への声かけや、受けられなかった研修の再申請のサポート	1	かなり取り組んでいる	63	5.7
			2	やや取り組んでいる	437	39.3
			3	あまり取り組んでいない	439	39.5
			4	まったく取り組んでいない	173	15.6
		F. 有給休暇取得の促進	1	かなり取り組んでいる	150	13.5
			2	やや取り組んでいる	479	43.1
			3	あまり取り組んでいない	343	30.8
			4	まったく取り組んでいない	140	12.6
		G. 介護と仕事の両立支援	1	かなり取り組んでいる	82	7.4
			2	やや取り組んでいる	439	39.5
			3	あまり取り組んでいない	419	37.7
			4	まったく取り組んでいない	172	15.5
		H. ワーク・ライフ・バランスに関する研修	1	かなり取り組んでいる	56	5.0
			2	やや取り組んでいる	367	33.0
			3	あまり取り組んでいない	454	40.8
			4	まったく取り組んでいない	235	21.1
		I. 管理職に向けた女性教員の育成	1	かなり取り組んでいる	54	4.9
			2	やや取り組んでいる	344	30.9
			3	あまり取り組んでいない	467	42.0
			4	まったく取り組んでいない	247	22.2
		J. 宿泊を伴う研修への女性の積極的な参加を促す	1	かなり取り組んでいる	46	4.1
			2	やや取り組んでいる	256	23.0
			3	あまり取り組んでいない	496	44.6
			4	まったく取り組んでいない	314	28.2
Q10	あなたは次のことにどれくらい取り組んでいますか。	A. アクティブ・ラーニング	1	かなり取り組んでいる	148	13.3
			2	やや取り組んでいる	541	48.7
			3	あまり取り組んでいない	320	28.8
			4	まったく取り組んでいない	103	9.3
		B. 新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン授業	1	かなり取り組んでいる	173	15.6
			2	やや取り組んでいる	428	38.5
			3	あまり取り組んでいない	312	28.1
			4	まったく取り組んでいない	199	17.9
		C. ICT機器を用いた授業	1	かなり取り組んでいる	261	23.5
			2	やや取り組んでいる	551	49.6
			3	あまり取り組んでいない	212	19.1
			4	まったく取り組んでいない	88	7.9

Q10	あなたは次のことにどれくらい取り組んでいますか。	D. 観点別評価	1	かなり取り組んでいる	220	19.8
			2	やや取り組んでいる	535	48.1
			3	あまり取り組んでいない	267	24.0
			4	まったく取り組んでいない	90	8.1
Q11	あなたの考え方に一番近いものを選んで下さい。	A. 教員は、社会的に尊敬される仕事だ	1	とてもそう思う	77	6.9
			2	ややそう思う	454	40.8
			3	あまりそう思う	433	38.9
			4	まったくそう思わない	148	13.3
		B. 教員は、経済的に恵まれた仕事だ	1	とてもそう思う	69	6.2
			2	ややそう思う	485	43.6
			3	あまりそう思う	400	36.0
			4	まったくそう思わない	158	14.2
		C. 教員は、精神的に気苦労の多い仕事だ	1	とてもそう思う	654	58.8
			2	ややそう思う	347	31.2
			3	あまりそう思う	75	6.7
			4	まったくそう思わない	36	3.2
		D. 教員は、子どもに接する喜びのある仕事だ	1	とてもそう思う	396	35.6
			2	ややそう思う	540	48.6
			3	あまりそう思う	118	10.6
			4	まったくそう思わない	58	5.2
		E. 教員は、やりがいのある仕事だ	1	とてもそう思う	384	34.5
			2	ややそう思う	517	46.5
			3	あまりそう思う	141	12.7
			4	まったくそう思わない	70	6.3
		F. 教員は、自己犠牲を強いられる仕事だ	1	とてもそう思う	434	39.0
			2	ややそう思う	477	42.9
			3	あまりそう思う	161	14.5
			4	まったくそう思わない	40	3.6
		G. 教員は、自分の考えにそって自律的にやれる仕事だ	1	とてもそう思う	112	101.0
			2	ややそう思う	571	51.3
			3	あまりそう思う	339	30.5
			4	まったくそう思わない	90	8.1
		H. 教員は、高度の専門的知識・技能が求められる仕事だ	1	とてもそう思う	326	29.3
			2	ややそう思う	591	53.1
			3	あまりそう思う	154	13.8
			4	まったくそう思わない	41	3.7
		I. 教員は、高い倫理観が強く求められる仕事だ	1	とてもそう思う	409	36.8
			2	ややそう思う	543	48.8
			3	あまりそう思う	112	10.1
			4	まったくそう思わない	48	4.3
		J. 教員は、「自分らしさ」を表現できる仕事だ	1	とてもそう思う	148	13.3
			2	ややそう思う	537	48.3
			3	あまりそう思う	318	28.6
			4	まったくそう思わない	109	9.8
		K. 教員は、はっきりとした成果を問われる仕事だ	1	とてもそう思う	120	10.8
			2	ややそう思う	473	42.5
			3	あまりそう思う	424	38.1
			4	まったくそう思わない	95	8.5
		L. 教員は、割り当てられた役割に専心する仕事だ	1	とてもそう思う	115	10.3
			2	ややそう思う	532	47.8
			3	あまりそう思う	362	32.6
			4	まったくそう思わない	103	9.3
		M. 教員は、教師以外の人々との関係づくりが欠かせない仕事だ	1	とてもそう思う	291	26.2
			2	ややそう思う	569	51.2
			3	あまりそう思う	197	17.7
			4	まったくそう思わない	55	4.9
Q12	あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか。	A. 教師になってよかった	1	とてもそう思う	323	29.0
			2	ややそう思う	536	48.2
			3	あまりそう思う	159	14.3
			4	まったくそう思わない	94	8.5
		B. 慢性的に疲れを感じる	1	とてもそう思う	407	36.6
			2	ややそう思う	454	40.8
			3	あまりそう思う	206	18.5
			4	まったくそう思わない	45	4.0
		C. 毎日が忙しい	1	とてもそう思う	473	42.5
			2	ややそう思う	454	40.8
			3	あまりそう思う	154	13.8
			4	まったくそう思わない	31	2.8

Q12	あなたは、現時点で次のことをどのように考えていますか。	D. 教師をやめたい	1 とてもそう思う	146	13.1
			2 ややそう思う	292	26.3
			3 あまりそう思う	407	36.6
			4 まったくそう思わない	267	24.0
		E. やりがいがある	1 とてもそう思う	325	29.2
			2 ややそう思う	525	47.2
			3 あまりそう思う	184	16.5
			4 まったくそう思わない	78	7.0
Q13	あなたが負担を感じる項目をすべて選んで下さい。	A 生徒指導	468	42.1	
		B 授業準備	311	28.0	
		C 校務分掌	430	38.7	
		D 部活動	323	29.0	
		E 保護者への対応	626	56.3	
		F 管理職への対応	215	19.3	
		G 管理的業務	94	8.5	
		H 調査・報告等の事務作業	491	44.2	
		I その他	30	2.7	
		J 負担を感じるものがない	98	8.8	
Q14	あなたは、過去に教師を辞めたいと思ったことがありますか。	1 ある	717	64.5	
		2 ない	395	35.5	
Q15	前問で「1. ある」と回答した方にお尋ねします。それはなぜですか。当てはまるものをすべて選んで下さい。	1 出産したから	75	10.5	
		2 介護を抱えたから	29	4.0	
		3 転職を考えたから	130	18.1	
		4 職務上の理由	423	59.0	
		5 自分自身の病気のため	130	18.1	
		6 その他	100	13.9	
Q16	現在の勤務先都道府県はどこですか。	1 北海道	82	7.4	
		2 青森県	7	0.6	
		3 岩手県	11	1.0	
		4 宮城県	26	2.3	
		5 秋田県	15	1.3	
		6 山形県	7	0.6	
		7 福島県	11	1.0	
		8 茨城県	29	2.6	
		9 栃木県	10	0.9	
		10 群馬県	12	1.1	
		11 埼玉県	37	3.3	
		12 千葉県	38	3.4	
		13 東京都	119	10.7	
		14 神奈川県	72	6.5	
		15 新潟県	17	1.5	
		16 富山県	6	0.5	
		17 石川県	6	0.5	
		18 福井県	7	0.6	
		19 山梨県	7	0.6	
		20 長野県	17	1.5	
		21 岐阜県	26	2.3	
		22 静岡県	39	3.5	
		23 愛知県	88	7.9	
		24 三重県	18	1.6	
		25 滋賀県	13	1.2	
		26 京都府	30	2.7	
		27 大阪府	76	6.8	
		28 兵庫県	39	3.5	
		29 奈良県	9	0.8	
		30 和歌山県	10	0.9	
		31 鳥取県	6	0.5	
		32 島根県	7	0.6	
		33 岡山県	19	1.7	
		34 広島県	31	2.8	
		35 山口県	20	1.8	
		36 徳島県	5	0.4	
		37 香川県	7	0.6	
		38 愛媛県	8	0.7	
		39 高知県	4	0.4	
		40 福岡県	48	4.3	
		41 佐賀県	6	0.5	
		42 長崎県	12	1.1	
		43 熊本県	16	1.4	
		44 大分県	11	1.0	

Q16	現在の勤務先都道府県はどこですか。	45 宮崎県	7	0.6				
		46 鹿児島県	12	1.1				
		47 沖縄県	9	0.8				
			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース
Q17	現在、勤めている都道府県で何年目の勤務ですか。数字をご入力ください。		18.96	12.76	0.00	49.00	16.00	1112
Q18	これまでの教員歴(年数)をお答え下さい。回答する時には、〇ヵ月は切り上げて下さい(例:1ヶ月→1年)。ない方は0でお答え下さい。※(現在の採用形態を含む)	A 臨時採用(非常勤)として	1.45	4.07	0.00	50.00	0.00	1112
		B 臨時採用(常勤)として	1.61	3.56	0.00	38.00	0.00	1112
		C 本採用として	17.45	13.41	0.00	47.00	15.00	1112
Q19	あなたは、正規の採用までに、何回、採用試験を受けましたか。回数をご入力下さい。		2.34	3.12	1.00	54.00	1.00	976
			N (1112)	%				
Q20	教職以外のキャリアの経験はありますか。	1 ある	299	26.9				
		2 ない	813	73.1				
Q21	教職を一度退職して、その後、再度教職に就いた経験はありますか。	1 ある	177	15.9				
		2 ない	935	84.1				
Q22	他都道府県で就職し、退職して、他都道府県に就職した経験はありますか。	1 ある	153	13.8				
		2 ない	959	86.2				
Q23	現在の勤務先での採用形態をお答え下さい。	1 本採用として	847	76.2				
		2 臨時採用・常勤	102	9.2				
		3 臨時採用・非常勤	151	13.6				
		4 その他	12	1.1				
Q24	勤務校の設置形態をお答え下さい。	1 国立	23	2.1				
		2 公立	951	85.5				
		3 私立	138	12.4				
Q25	あなたの現在の職名をお答え下さい。	1 校長・副校長・教頭	71	6.4				
		2 主幹教諭・指導教諭・主任・首席教諭など	134	12.1				
		3 教諭	692	62.2				
		4 臨時採用・臨時講師	190	17.1				
		5 その他	25	2.2				
Q26	あなたは現在学級担任をしていますか。	1 している	474	42.6				
		2 していない	638	57.4				
Q27	あなたは現在部活動の顧問をしていますか。	1 している	416	37.4				
		2 していない	696	62.6				
Q28	あなたは現在、教職大学院に在学していますか。	1 している	19	1.7				
		2 していない	1093	98.3				
			N (1112)	%				
Q29	中・高(中等教育学校を含む)の先生にお尋ねします。担当教科をお答え下さい。(当てはまるものすべて) 【複数回答】	1 国語	74	13.1				
		2 社会・地理歴史・公民	66	11.6				
		3 数学	96	16.9				
		4 理科	74	13.1				
		5 音楽	30	5.3				
		6 美術・芸術	13	2.3				
		7 保健体育	44	7.8				
		8 家庭科・技術家庭科	36	6.3				
		9 英語(外国語)	108	19.0				
		10 情報	18	3.2				
		11 総合的な学習(探究)の時間	50	8.8				
		12 特別の教科道徳	30	5.3				
		13 専門学科の教科(商業・工業・農業・水産など)	28	4.9				
		14 その他	19	3.4				
Q30	担当教科の学校内外のネットワークはありますか。	1 ある	472	42.4				
		2 ない	425	38.2				
		3 該当しない	215	19.3				
			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース
Q31	これまで、異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。		3.62	3.07	0.00	20.00	3.00	1112
Q32	これまで、転居を伴う異動は何回経験しましたか。回数をご入力ください。		1.10	3.70	0.00	100.00	0.00	1112
			N (826)	%				
Q33	あなたが現在担っている主任または主事の役割はありますか。当てはまるものをすべて選んで下さい。担っていない場合には、「担っていない」を選んで下さい。 【複数回答】	1 教務主任	49	5.9				
		2 学年主任	128	15.5				
		3 保健主事	22	2.7				
		4 生徒指導主事	46	5.6				
		5 進路指導主事	40	4.8				
		6 その他の主任・主事の役割	77	9.3				
		7 担っていない	509	61.6				

			N (1112)	%					
Q34	あなたの平均的な1日の在職時間は何時間ですか。	1	8時間未満	235	21.1				
		2	8時間以上10時間未満	448	40.3				
		3	10時間以上12時間未満	309	27.8				
		4	12時間以上14時間未満	83	7.5				
		5	14時間以上16時間未満	13	1.2				
		6	16時間以上	24	2.2				
Q35	あなたの通勤時間はどのくらいですか。	1	30分未満	504	45.3				
		2	30分以上1時間未満	418	37.6				
		3	1時間以上1時間30分未満	149	13.4				
		4	1時間30分以上2時間未満	24	2.2				
		5	2時間以上	17	1.5				
Q36	あなたは配偶者がいますか(事実婚を含む)。	1	いる	820	73.7				
		2	いない	292	26.3				
			N (820)	%					
Q37	前問で「1.いる」を選択した場合、配偶者の職種、就労状況および就労形態について、次のうち、当てはまるものを選んで下さい。	1	教員	263	32.1				
		2	教員ではない	557	67.9				
			N (263)	%					
Q38	前問が「1. 教員」の場合、次のどちらに当てはまりますか。	1	本務教員	235	89.4				
		2	臨時採用・臨時講師等の兼務教員	28	10.6				
			N (557)	%					
Q39	前問が「2. 教員ではない」の場合、当てはまるものを選んで下さい。	1	無職	144	25.9				
		2	正規雇用者	224	40.2				
		3	非正規雇用者	126	22.6				
		4	自営・家族従業・自由業	55	9.9				
		5	その他	8	1.4				
			N (1112)	%					
Q40	あなたは現在、家事・育児・介護等、あなたのご家庭の役割をどの程度担っていますか。(家庭に必要な総労力を100%として)次のうち、当てはまるものを1つだけ選んで下さい。	1	ほとんどあなたがしている(90～100%程度)	286	25.7				
		2	半分以上はあなたがしている(60～80%程度)	215	19.3				
		3	ほぼ半分あなたがしている(50%程度)	140	12.6				
		4	半分以下だがあなたもしている(20～40%程度)	239	21.5				
		5	あなたはほとんどしていない(0～10%程度)	232	20.9				
Q41	あなたにはお子さんはいますか。	1	いる	702	63.1				
		2	いない	410	36.9				
			平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値	有効ケース	
Q42	前問で「1.いる」の場合、お子さんの数は何人ですか。		1.93	0.81	1.00	5.00	2.00	702	
			N (702)	%					
Q43	前問で「1.いる」の場合、小学生未満のお子さんはいいますか。	1	いる	226	32.2				
		2	いない	476	67.8				
			N (1112)	%					
Q44	現在、ご家族の介護(同居・別居どちらでも)をしていますか。	1	している	122	11.0				
		2	していない	990	89.0				

執筆者一覧

木村育恵(北海道教育大学)

はじめに, I-1, I-2(1), (2), II-1, II-2(1), (2)

河野銀子(山形大学)

I-2(3)~(6), II-2(3)~(6)

田口久美子(和洋女子大学)

I-2(7), (8), II-2(7), (8)

池上徹(関西福祉科学大学)

I-2(9), II-2(9)

跡部千慧(立教大学)

I-2(10), (11), II-2(10), (11)

高野良子(植草学園大学名誉教授)

I-2(12)~(15), I-3(1)~(3), II-2(12)~(15), II-3(1)~(3)

村上郷子(法政大学 非常勤講師)

I-3(4)~(17), II-3(4)~(17)

井上いずみ(公立学校教員)

I-3(18)~(29), II-3(18)~(29)

教員のキャリア形成に関するアンケート調査
(オンラインによる全国教員調査)結果報告書

2023 年 3 月 発行

教員のキャリア形成に関する研究会
(木村育恵・河野銀子・田口久美子・池上徹・跡部千慧・高野良子・村上郷子・井上いずみ)

連絡先 〒040-8567 北海道函館市八幡町1-2
北海道教育大学教育学部函館校 木村育恵研究室
E-mail: kimura.ikue@h.hokkyodai.ac.jp

国際ジェンダー学会教育分科会 研究成果公開 HP
<https://isgswe.aiyweb.com/index.html>

